
Data Administrator Ver.4

ユーザーズガイド

目次

本製品について	iii
登録商標および商標	iii

1 はじめに

1.1 動作環境	1-1
1.2 機能の概要	1-2

2 ソフトウェアのインストール

2.1 Data Administrator	2-1
インストールする	2-1
アンインストールする	2-2

3 Data Administrator の使いかた

3.1 起動方法	3-1
起動する	3-1
3.2 終了方法	3-2
終了する	3-2
3.3 装置の登録	3-2
3.4 管理者設定	3-3
管理者設定	3-3
3.5 1 台装置の設定	3-6
装置から情報を読み込む	3-6
SNMP Read コミュニティー名が表示された場合	3-9
CSV ファイルから短縮情報を読み込む	3-10
LDAP サーバーから短縮情報を読み込む	3-15
旧装置から短縮情報を読み込む	3-19
検索範囲を設定する	3-24
3.6 設定の一括コピー	3-25
装置から装置に設定をコピーする	3-25
3.7 短縮宛先の一括メンテナンス	3-29
短縮宛先一括メンテナンス	3-29
3.8 ユーザーの一括メンテナンス	3-35
ユーザーの一括メンテナンス	3-35
3.9 部門の一括メンテナンス	3-41
部門の一括メンテナンス	3-41
3.10 日時の変更	3-47
装置の日時を変更する	3-47

3.11	外部証明書の一括設定	3-50
	外部証明書の一括設定	3-50
3.12	ボックスの自動作成	3-55
	ボックス自動作成を設定する	3-55
3.13	一括処理オプション	3-56
	一括処理オプションを設定する	3-56
3.14	認証モードのテンプレート設定	3-57
	認証モードテンプレートを作成する	3-57
	認証モードテンプレートを編集する	3-59
	認証モードテンプレートを削除する	3-61
3.15	ユーザーのテンプレート設定	3-62
	ユーザーテンプレートを作成する	3-62
	ユーザーテンプレートを編集する	3-64
	ユーザーテンプレートを削除する	3-66
	デフォルトのユーザーテンプレートを設定する	3-67
3.16	部門のテンプレート設定	3-68
	部門テンプレートを作成する	3-68
	部門テンプレートを編集する	3-70
	部門テンプレートを削除する	3-72
	デフォルトの部門テンプレートを設定する	3-73
3.17	ウィークリータイマーのテンプレート設定	3-74
	ウィークリータイマーテンプレートを作成する	3-74
	ウィークリータイマーテンプレートを編集する	3-76
	ウィークリータイマーテンプレートを削除する	3-77
3.18	IP フィルタリングのテンプレート設定	3-78
	IP フィルタリングテンプレートを作成する	3-78
	IP フィルタリングテンプレートを編集する	3-80
	IP フィルタリングテンプレートを削除する	3-81
3.19	宛先と認証データのバックアップ / リストア	3-82
	宛先と認証データのバックアップ	3-82
	宛先データのリストア	3-85
	認証データのリストア	3-88

4 付録

4.1	認証モードテンプレートの設定項目	4-1
4.2	ウィークリータイマーテンプレート設定項目	4-4
4.3	こんなメッセージが表示されたら	4-4

本製品について

このソフトウェアは、Device Set-Up のプラグインとして、対応装置（複合機）の認証機能や宛先機能を、ネットワーク上のコンピューターから編集／登録するのに使用する、管理用のツールです。

装置から認証リストや宛先リストを取り込み、編集した後、再び装置に書き出すことができます。

XML, CSV, TAB, LDIF, Lotus Notes Structured Text 等のファイル形式の宛先リストを取り込むことができます。

Active Directory 等のディレクトリサーバーに対して、LDAP プロトコルを使って宛先の検索やブラウズを行い、宛先リストを取り込むことができます。

登録商標および商標

Active Directory、Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他の製品名は、各社の商標または登録商標です。



ワンポイント

装置や設定および使用するコンピューターによって、本書に記載されている画面の内容と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。



ご注意

本書の一部またはすべての内容を、無断で複製したり、他言語に翻訳したり、引用したりすることは、固くお断りします。

本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがありますので、ご了承ください。

Copyright © 2008 KONICA MINOLTA, INC. All rights reserved.

1 はじめに

1.1 動作環境

本ソフトウェアを使用するには、以下の仕様を満たすシステムが必要です。

OS	Windows Vista Enterprise (SP2 以降) * Windows Vista Business (SP2 以降) * Windows Vista Ultimate (SP2 以降) * Windows 7 Enterprise (SP1 以降) * Windows 7 Professional (SP1 以降) * Windows 7 Ultimate (SP1 以降) * Windows 8.1 Pro * Windows 8.1 Enterprise * Windows 10 Pro * Windows 10 Enterprise * Windows 10 Education * * 32 ビット (x86)/64 ビット (x64) 環境に対応。
コンピューター	使用 OS の推奨動作環境に準ずる
メモリー (RAM)	使用 OS の推奨動作環境に準ずる
ハードディスク ドライブの空き容量	600 MB 以上
ディスプレイ	800 × 600 ピクセル、16 ビットカラー以上
ネットワーク	TCP/IP プロトコル
Web ブラウザー	Microsoft Internet Explorer 各 OS がサポートする最新バージョン
ライブラリー	Microsoft .NET Framework: 以下のバージョンが両方とも必要です。 ・ .NET Framework 3.5 (SP1 以降) ・ .NET Framework 4.5 以降 * Windows 8.1、Windows 10 をお使いの場合は、以下の手順に従って、.NET Framework 3.5 を別途インストールしてください。 1. [コントロールパネル] を開き、[プログラム] - [プログラムと機能] - [Windows の機能の有効化または無効化] をクリックします。 2. 「.NET Framework 3.5 (.NET 2.0 および 3.0 を含む)」にチェックを付け、[OK] をクリックします。 3. OS の指示に従ってインストールを完了します。
対応装置	Readme ファイルを参照してください。

最新の動作環境については Readme を参照してください。



ワンポイント

本ソフトウェアを使用するには、装置のパネル上から管理者設定 - システム連携 - OpenAPI 設定を有効にする必要があります。

1.2 機能の概要

Data Administrator の機能概要は以下の通りです。

- 装置に登録された管理者情報、ネットワーク情報、認証情報および宛先情報の取得、設定
- 装置に登録された管理者情報、ネットワーク情報、認証情報および宛先情報のバックアップ
- 装置に登録された認証情報および宛先情報を別の装置へコピー
- ユーザー情報、部門情報および短縮情報の一括設定
- 機能単位でのアクセス制限を設定
- ファイルに保存されたデータ（XML 形式、CSV 形式、LDIF 形式）のインポート



...

ワンポイント

複数装置の画面を開いた状態で、宛先等を別の装置にコピーしてペーストできます。

以下の機能については、Device Set-Up ユーザーズガイドをごらんください。

- 対応装置の検索 / 登録
- ネットワーク初期設定
- 装置リストのインポート / エクスポート
- オートプロテクト機能
- 機能アクセス制限ファイルの設定
- グループの設定
- LDAP サーバーアクセス設定
- 表示オプションの設定



...

ご注意

Data Administrator で作業中の場合は、他の管理者が操作パネルや Web Connection で操作しないようにしてください。

2 ソフトウェアのインストール

2.1 Data Administrator

Data Administrator を以下の方法でインストール / アンインストールします。

インストールする

→ Device Set-Up がインストールされていない場合、Device Set-Up のインストーラーが起動するので、先に Device Set-Up をインストールしてください。

- 1 Data Administrator フォルダーを開きます。
 - Data Administrator をコピーした場所を確認してください。
- 2 Setup.exe をダブルクリックします。
インストールプログラムが起動します。
- 3 画面の指示にしたがってインストールを行います。
- 4 InstallShield Wizard の完了画面が表示されたら完了をクリックします。

アンインストールする

- ✓ Data Administrator がインストールされている状態で、Device Set-Up をアンインストールすると Data Administrator が使用できなくなりますので、ご注意ください。その場合、Data Administrator のインストーラーで再インストールすれば、Device Set-Up もインストールされます。
- 1 スタートー コントロール パネルをクリックし、コントロール パネルを開きます。
- 2 プログラムと機能をダブルクリックします。
- 3 現在インストールされているプログラム欄から Data Admin V4 を選択し、アンインストールをクリックします。
- 4 ファイル削除の確認画面が表示されたら、OK をクリックします。
アンインストールが開始されます。
- 5 メンテナンスの完了画面が表示されたら、完了をクリックします。

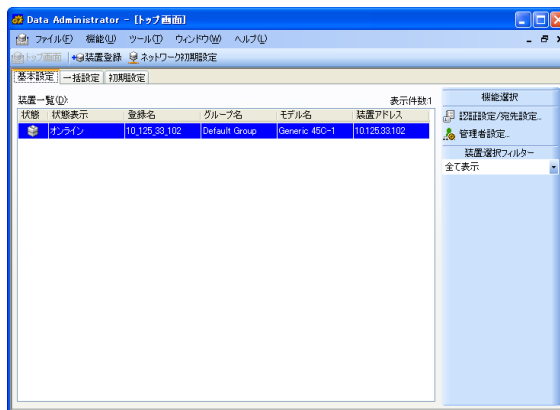
3 Data Administrator の使いかた

3.1 起動方法

Data Administrator を以下の操作で起動します。

起動する

- スタートメニューから Data Admin V4 を選択します。
メイン画面が起動します。



ワンポイント

初めて起動したときはアプリケーション保護の設定画面が表示されます。アプリケーションの保護の設定については、Device Set-Up ユーザーズガイドをごらんください。

メイン画面の詳細については、Device Set-Up ユーザーズガイドをごらんください。

3.2 終了方法

Data Administrator を以下の操作で終了します。

終了する

→ ファイルメニューから終了を選択します。

3.3 装置の登録

Data Administrator を使用するには、ネットワーク上の対応装置を検索して登録する必要があります。

対応装置の検索 / 登録方法として、以下の方法があります。

- ネットワーク上の装置を検索する方法
- IP アドレスを指定して検索する方法
- 機能アクセス制限ファイルから登録する方法
- ローカルファイルを登録する方法



ワンポイント

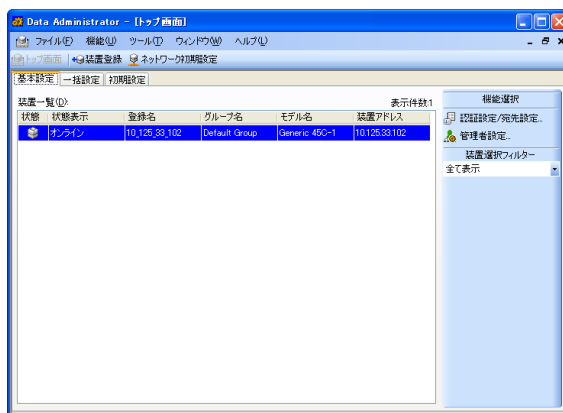
対応装置の検索 / 登録方法については、Device Set-Up ユーザーズガイドをごらんください。

3.4 管理者設定

Data Administrator に登録した装置の管理者用設定を設定します。

管理者設定

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 装置一覧で情報を読み込む装置を選択し、機能選択フィールドから [管理者設定] をクリックします。



- 3 読み込む機能と読み込み先を指定して [読み込み] をクリックします。



- 管理者設定：管理者設定を装置から読み込む場合にチェックします。

- 読み込み先：装置に接続して最新の情報を読み込む場合は装置から取得を選択し、前回アクセスした際の情報をローカルファイルから読み込む場合は前回の内容を選択します。

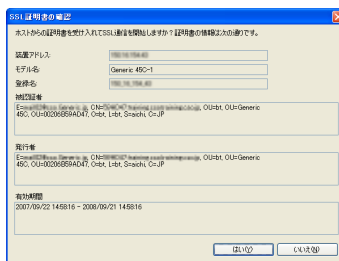
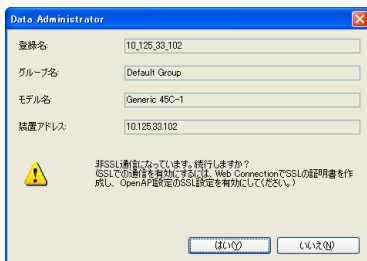


ワンポイント

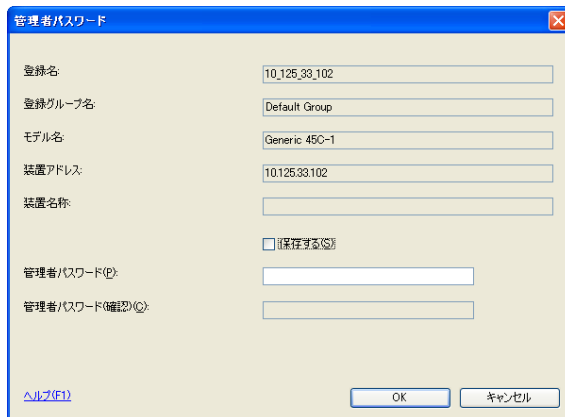
SSL 通信の設定によって以下の画面が表示されます。操作を続けるにはいずれも【はい】をクリックします。

SSL 通信が設定されていない場合

SSL 通信が設定されている場合



- 4 管理者パスワード画面が表示された場合は、装置の管理者パスワードを入力して【OK】をクリックします。



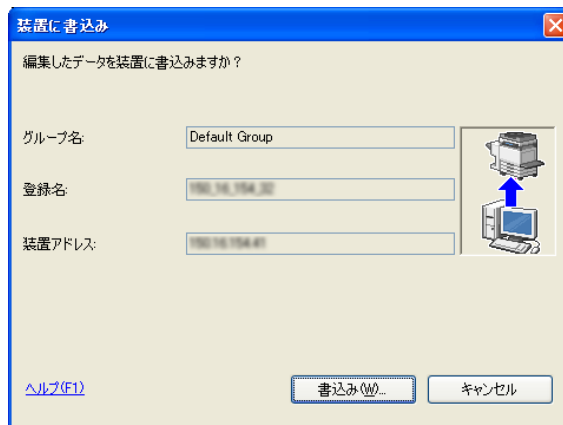
- 【保存する】にチェックを入れると、次回以降にパスワードを入力する必要がなくなります。

- 5 画面左側の機能選択から設定したい項目を選択して、設定内容を変更して「装置に書込み」をクリックします。

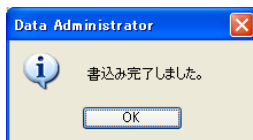


- 装置の各種設定について、詳しくはヘルプをごらんください。

- 6 「書込み」をクリックします。



- 7 「OK」をクリックします。



管理者設定が書き込まれます。

3.5 1 台装置の設定

Data Administrator に登録した装置の短縮アドレスなどを設定します。設定項目や設定手順は、装置によって異なります。ここでは Generic 45C-1 を例に説明します。別の装置での設定項目や設定手順はヘルプをご参照ください。

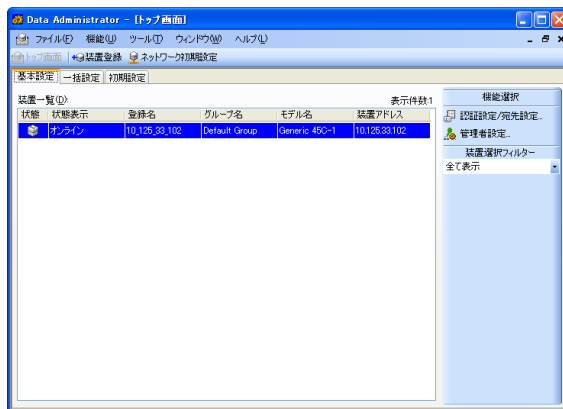


ワンポイント

設定項目や設定手順は、装置によって異なります。詳しくはヘルプをご参照ください。

装置から情報を読み込む

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示については、p. 3-1 をごらんください。
- 2 装置一覧で情報を読み込む装置を選択し、機能選択フィールドから「認証設定 / 宛先設定」または「管理者設定」をクリックします。



3 装置情報の読み込み方法を設定し、「読み込み」をクリックします。

- 管理者設定：管理者設定を装置から読み込む場合にチェックします。
- 認証設定：認証設定を装置から読み込む場合にチェックします。
- 宛先設定：宛先設定を装置から読み込む場合にチェックします。
- 読み込み先：装置に接続して最新の情報を読み込む場合は装置から取得を選択し、前回アクセスした際の情報をローカルファイルから読み込む場合は前回の内容を選択します。



ワンポイント

SSL 通信の設定によって以下の画面が表示されます。操作を続けるにはいずれも「はい」をクリックします。

SSL 通信が設定されていない場合

SSL 通信が設定されている場合

- 4 管理者パスワード画面が表示された場合は、装置の管理者パスワードを入力して [OK] をクリックします。

- [保存する] にチェックを入れると、次回以降にパスワードを入力する必要がなくなります。

- 5 機能選択フィールドから設定項目を選択します。

項目	値
登録名	10_125_33_102
グループ名	Default Group
モデル名	Generic 450-1
装置アドレス	1012533102

最終アクセス日時 (Last Access Time)

機能	最終アクセス日時
認証設定	2008/01/10 14:39:16
宛先設定	2008/01/10 14:39:16

現在のステータス (2008/01/10 14:39:16)

種類	ステータス
プリンター	Caution(Paper Empty/Manual)

- 装置の各種設定について、詳しくはヘルプをごらんください。



ワンポイント

SNMP の Read コミュニティー名が変更されている場合に SNMP Read コミュニティー名入力画面が表示されます。Read コミュニティー名を入力し、OK をクリックします。

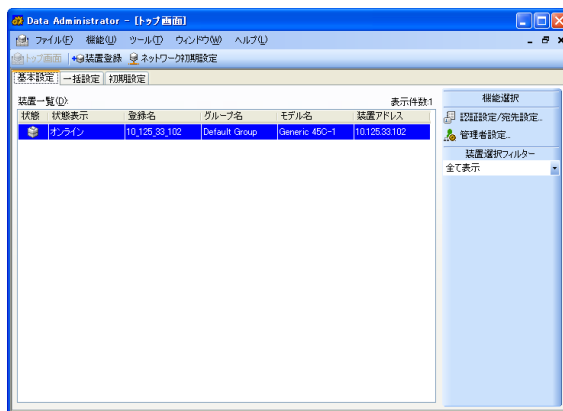
SNMP Read コミュニティー名が表示された場合

Read コミュニティー名 : SNMP の Read コミュニティー名を入力します。

CSV ファイルから短縮情報を読み込む

機種によっては全ての宛先区分のインポートに対応していない場合があります。機種間の宛先データの移行に本機能を使用する場合、BIN ファイル（[認証と宛先データのバックアップ] メニューで保存したファイル）をインポートすることで全ての宛先区分（ただしボックスは除く）をインポートすることが可能です。

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 装置一覧で情報を読み込む装置を選択し、機能選択フィールドから [認証設定 / 宛先設定] をクリックします。

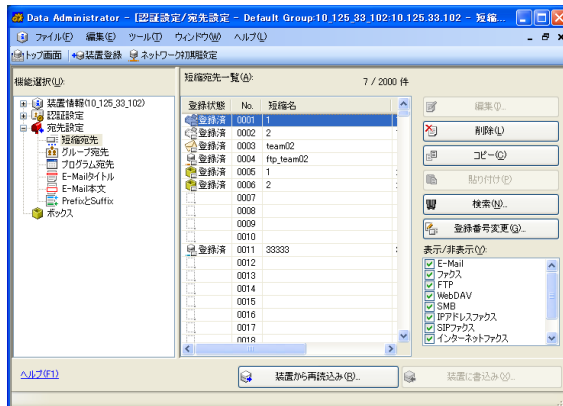


- 3 装置情報の読み込み方法を設定し、[読み込み] をクリックします。

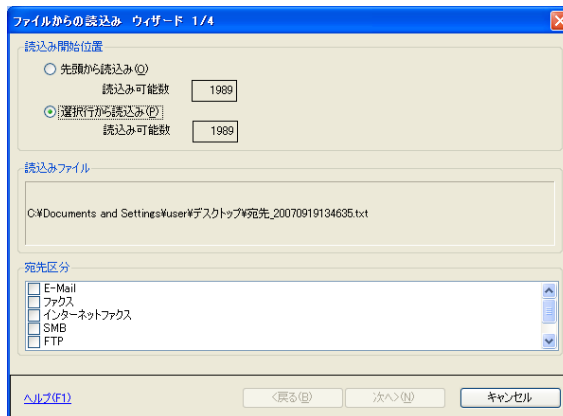


- 装置情報の読み込みの操作の詳細は、p. 3-6 をご覧ください。

4 機能一覧から短縮宛先を選択します。

5 ファイルメニューからインポートーデータを個別にファイルから読み込むを選択します。
ファイルを開く画面が表示されます。6 読み込むファイルを選択し、開くをクリックします。
ファイルからの読み込みウィザード画面が表示されます。

7 開始位置を設定し、次へをクリックします。



- 読み込み開始位置：呼出し元画面の先頭行から取込みを開始する場合は先頭から読み込みを選択し、呼出し元画面の選択行から取込みを開始する場合は選択行から読み込みを選択します。
- 宛先区分：宛先区分を選択します。選択可能な項目は、装置の機種種、オプションによって異なります。

8 読み込み方法を設定し、次へをクリックします。

ファイルからの読み込み ウィザード 2/4

ヘッダー行設定
☐ ヘッダー行を指定する (H) 0 行目 (0-11)

区切り文字
☒ タブ (T) ☐ カンマ (C) ☐ セミicolon (S)
☐ スペース (E) ☐ その他 (O): (1文字以内) 文字列の引用符 (F) "

行番号	1 列目	2 列目	3 列目	4 列目	5 列目
1	短縮名	宛先区分	検索キー	ファクス:ファクス番.	SIPファクス:ファク
2	tokyo	E-Mail	Tuv		
3	osaka	E-Mail	Mno		
4	SMGT	SMG	Pqr		
5	box01	ボックス	Abc		
6	WebDAV01	WebDAV	Wxyz		
7	IP-1	IPアドレスファクス	Ghi		
8	123@test.local	インターネットファ	Other		
9	Test FAX	ファクス		1234567890	
10	FTP1	FTP	Def		
11	nagoya	E-Mail	Mno		
12	fukuoka	E-Mail	Def		

ヘルプ(F1) <戻る(B) 次へ(F) キャンセル

- ヘッダー行を設定する：指定したヘッダー行以下からデータを取得する場合にチェックします。
- 行目：ヘッダー行を指定します。
- タブ：読み込むデータがTAB コードで区切られている場合にチェックします。
- カンマ：読み込むデータがカンマで区切られている場合にチェックします。
- セミicolon：読み込むデータがセミicolonで区切られている場合にチェックします。
- スペース：読み込むデータがスペースで区切られている場合にチェックします。
- その他：読み込むデータがその他の区切り文字で区切られている場合にチェックします。
- (1 文字以内)：その他にチェックした場合に、区切り文字にする文字を指定します。
- 文字列の引用符：文字列の引用符を選択します。

9 読込むデータの各列に項目名を設定し、次へをクリックします。

ファイルからの読込み ウィザード 3/4

ファイル内の各列をインポート先項目に割り当てます。列を左側のリストから選択し、インポート先項目を右のリスト列ごとに設定してください。

読込みフィールドの割当 (A)

列名	インポート項目名
1. 短縮名	
2. 宛先区分	
3. 検索キー	
4. ファクス:ファクス番号	
5. SIPファクス:ファクス	
6. IPアドレス:IPアドレス	

<< 設定(S)

解除

読込みフィールド一覧 (D)

項目名	宛先名	検索キー	E-Mail: E-Mailアドレス
短縮名	宛先名	検索キー	E-Mail: E-Mailアドレス

ヘルプ(F1) <戻る(B) 次へ(F) キャンセル

- 設定：読込みフィールド一覧の項目を読込みフィールドの割当に設定します。
- 解除：読込みフィールドの割当に設定された読込みフィールド一覧の項目を解除します。

10 読込むデータを設定し、読込みをクリックします。

ファイルからの読込み ウィザード 4/4

読込みデータを選択して下さい。

読込みデータ一覧 (M)

0 件選択 11 件表示

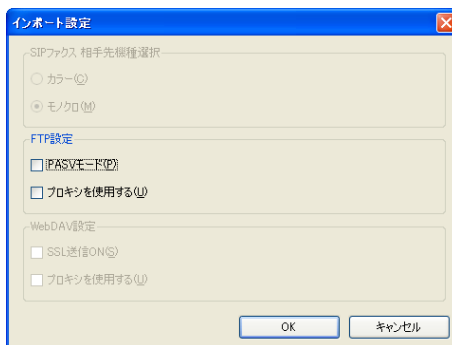
選択	宛先区分	宛先名	検索キー	E-Mail: E-Mailアドレス
<input checked="" type="checkbox"/>	E-Mail	Tuv	Def	tokyo
<input checked="" type="checkbox"/>	E-Mail	Mno	Def	osaka
<input checked="" type="checkbox"/>	E-Mail	Pqrs	Pqrs	SMB1
<input checked="" type="checkbox"/>	E-Mail	Abc	Ha	box01
<input checked="" type="checkbox"/>	E-Mail	Wxyz	Wxyz	WebDAV01
<input checked="" type="checkbox"/>	E-Mail	Ghi	Ghi	IP-1
<input checked="" type="checkbox"/>	E-Mail	Other	Aa	123@test.local
<input checked="" type="checkbox"/>	E-Mail	Other	Ha	Test FAX
<input checked="" type="checkbox"/>	E-Mail	Def	Def	FTP1
<input checked="" type="checkbox"/>	E-Mail	Mno	Def	naooya
<input checked="" type="checkbox"/>	E-Mail	Def	Def	fukuoka

選択(S) 解除

ヘルプ(F1) <戻る(B) 読込み(F) キャンセル

- 選択：装置に読込むデータを選択します。読込むデータをリストから選択し、選択をクリックします。
- 解除：選択されたデータを解除します。選択解除したいデータをリストから選択し、解除をクリックします。

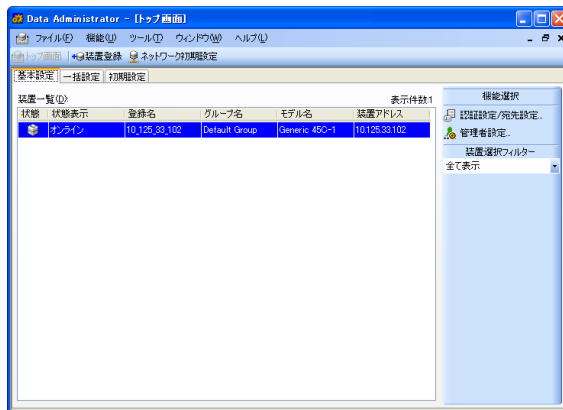
- 11 宛先区分でFTPまたはSMBを選択している場合は、FTP設定を指定して、[OK] をクリックします。



- PASV モード：
PASV モードを使用する場合はチェックを入れます。
- プロキシを使用する：
プロキシを使用する場合はチェックを入れます。

LDAP サーバーから短縮情報を読み込む

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 装置一覧で情報を読み込む装置を選択し、機能選択フィールドから「認証設定 / 宛先設定」をクリックします。

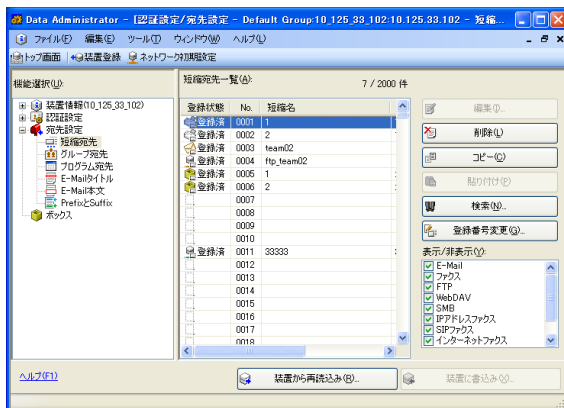


- 3 装置情報の読み込み方法を設定し、「読み込み」をクリックします。



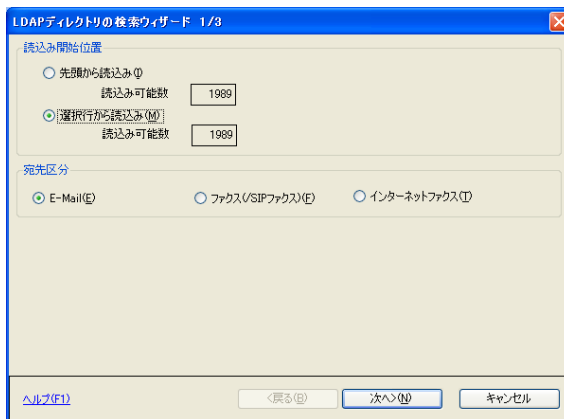
- 装置情報の読み込みの操作の詳細は、p. 3-6 をご覧ください。

4 機能一覧から宛先設定 - 短縮宛先を選択します。



5 ファイルメニューからインポートLDAPから読み込むを選択します。LDAPディレクトリの検索ウィザード画面が表示されます。

6 開始位置を設定し、次へをクリックします。



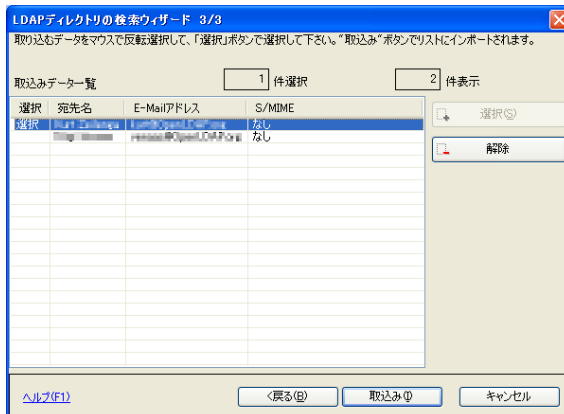
- 読み込み開始位置：呼出し元画面の先頭行から取込みを開始する場合は先頭から読み込みを選択し、呼出し元画面の選択行から取込みを開始する場合は選択行から読み込みを選択します。
- 宛先区分：宛先区分を選択します。選択可能な項目は、装置の機種、オプションによって異なります。

7 検索条件を設定し、検索をクリックします。

- ディレクトリ名称：検索する LDAP サーバーを選択します。
- LDAP 設定：LDAP サーバーを設定します。詳しくは Device Set-Up ユーザーズガイドをごらんください。
- 条件設定：検索条件を項目、条件、検索語で設定します。
- 検索：LDAP サーバーを条件設定で設定した検索条件で検索します。

8 検索結果を確認し、次へをクリックします。

9 読み込むデータを設定し、取込みをクリックします。



- 選択：装置に読み込むデータを選択します。読み込むデータをリストから選択し、**選択**をクリックします。
- 解除：選択されたデータを解除します。選択解除したいデータをリストから選択し、**解除**をクリックします。

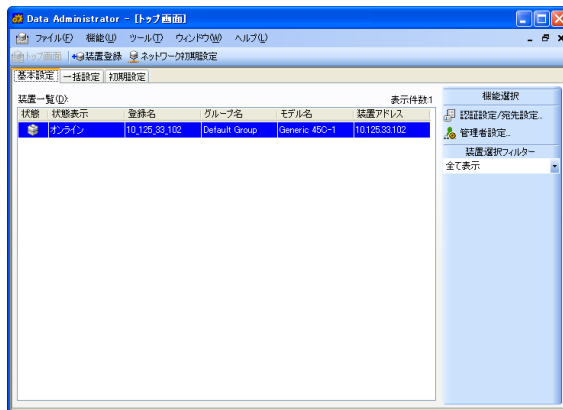
10 取り込まれたデータを選択して「装置に書き込み」をクリックします。



短縮情報が装置に書き込まれます。

旧装置から短縮情報を読み込む

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 装置一覧で情報を読み込む装置を選択し、機能選択フィールドから「認証設定 / 宛先設定」をクリックします。

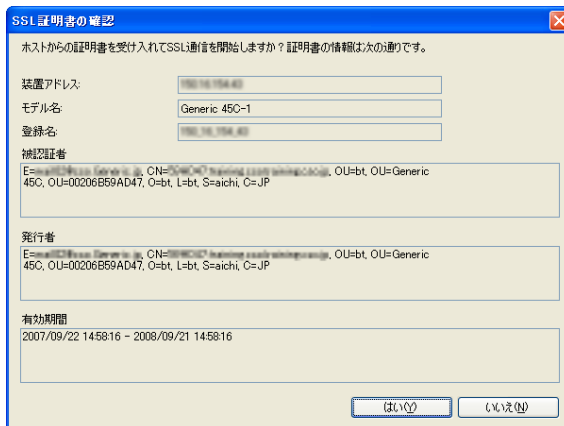


- 3 装置情報の読み込み方法を設定し、「読み込み」をクリックします。

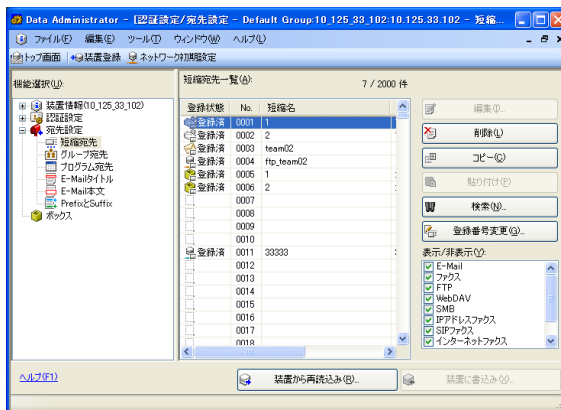


- 装置情報の読み込みの操作の詳細は、p. 3-6 をご覧ください。

- 4 管理者パスワード入力画面が表示された場合、装置の管理者パスワードを入力して [OK] をクリックします。
- 5 SSL 証明書の確認メッセージが表示された場合は、[はい] をクリックします。



- 6 機能一覧から短縮宛先を選択します。



- 7 ファイルメニューからインポート→旧装置から読み込むを選択します。装置から読み込み画面が表示されます。

8 短縮情報を読み込む装置を設定し、データ取得をクリックします。

装置から読み込み

装置の選択

☒ 自動検索された装置一覧から選択(S) 0 件

装置名	IPアドレス

更新(R)

検索範囲設定(A)...

☐ 装置のアドレスを直接入力Φ

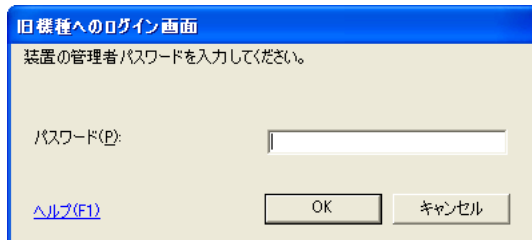
装置選択(L) 7085/7165/7165, D:651/650/850

装置のアドレス(半角126文字以内)(Q)

ヘルプ(F1) <戻る(B) データ取得... キャンセル

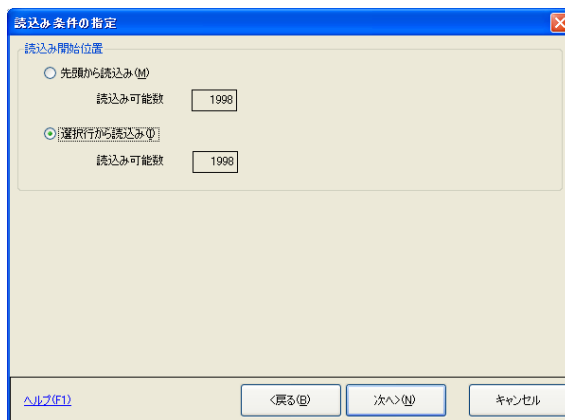
- 装置の選択：自動検索された装置一覧から装置を選択する場合は自動検索された装置一覧から選択を選択し、直接装置の IP アドレスまたはホスト名を指定し装置を選択する場合は装置のアドレスを直接入力を選択します。
- 更新：設定された検索範囲で装置を再検索します。
- 検索範囲設定：装置の検索範囲を設定します。詳しくは p. 3-24 をご覧ください。
- 装置選択：装置の機種を選択します。
- 装置のアドレス：装置の IP アドレスまたはホスト名を入力します。
- 対応機種についてはヘルプを参照してください。

- 9 装置の管理者パスワードを入力し、OK をクリックします。



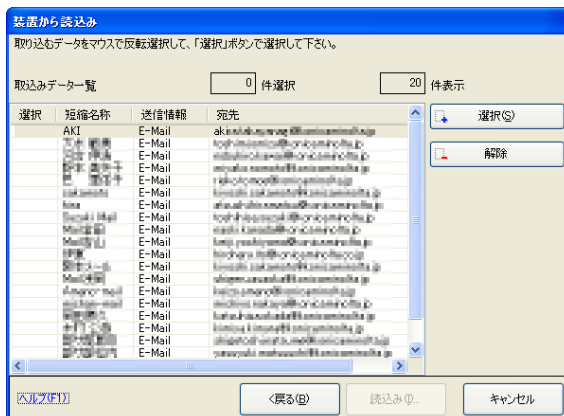
- 装置によっては、ユーザー ID の入力が必要です。

- 10 読み込み条件を設定し、次へをクリックします。



- 読み込み開始位置：呼出し元画面の先頭行から取込みを開始する場合は先頭から読み込みを選択し、呼出し元画面の選択行から取込みを開始する場合は選択行から読み込みを選択します。

11 読み込むデータを選択し、「選択」をクリックします。



- 選択：装置に読み込むデータを選択します。読み込むデータをリストから選択し、**選択**をクリックします。
- 解除：選択されたデータを解除します。選択解除したいデータをリストから選択し、**解除**をクリックします。

12 読み込みをクリックします。

13 読み込まれた情報を選択して「装置に書き込み」をクリックします。



14 [書き込み] をクリックします。

15 [OK] をクリックします。

読み込んだ短縮情報が装置に書き込まれます。

検索範囲を設定する

- 1 p. 3-21の手順8の装置から読み込み画面で検索範囲設定をクリックします。
装置検索設定画面が表示されます。
- 2 検索範囲を設定し追加をクリックします。

- SNMP コミュニティー名：SNMP コミュニティー名を入力します。
- 検索開始 IP：検索範囲の開始 IP アドレスを入力します。
- 検索終了 IP：検索範囲の終了 IP アドレスを入力します。
- 追加：検索範囲を追加します。
- 削除：検索範囲を削除します。削除する検索範囲をリストから選択し、削除をクリックします。

- 3 OK をクリックします。

3.6 設定の一括コピー

コピー元の装置の認証設定と宛先設定を他の複数装置に一括でコピーします。一括コピーのウィザード画面の指示にしたがって設定を行ってください。

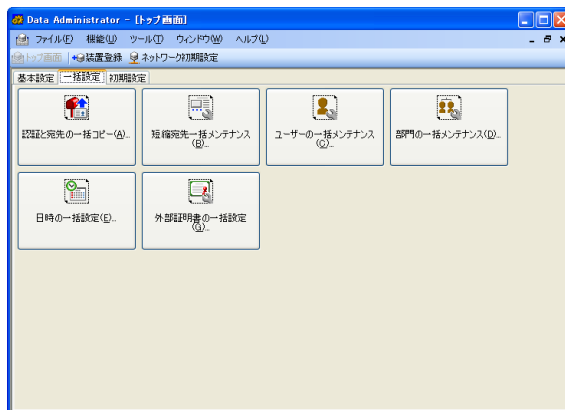


ワンポイント

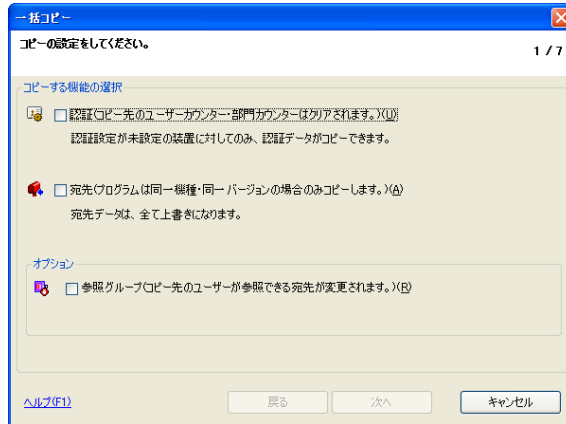
装置やファームウェアのバージョンによって、本機能が使用できないことがあります。

装置から装置に設定をコピーする

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 「一括設定」タブをクリックし、「認証と宛先の一括コピー」を選択します。

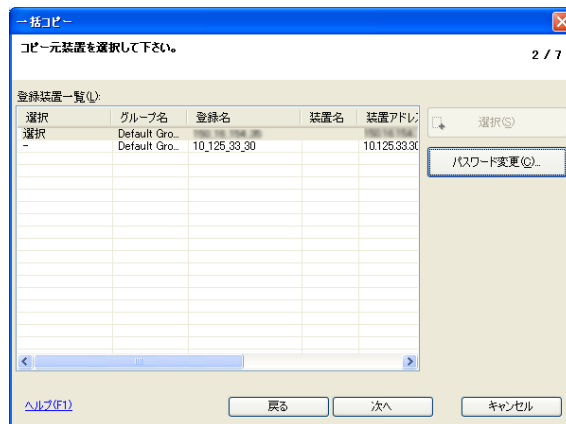


3 コピーする機能を選択し、次へをクリックします。



- 認証：認証設定をコピーする場合にチェックします。コピー先のユーザーカウンター・部門カウンターはクリアされます。
- 宛先：宛先設定をコピーする場合にチェックします。プログラムのコピーは同一機種・同一バージョンの場合にコピーできます。また、コピー元装置とコピー先装置で、オプション構成、仕向けが異なる場合、読み込み設定と通信設定はオフで登録されます。
- 参照グループ：コピー元装置の参照許可グループをコピーする場合にチェックします。コピー先の参照許可グループはクリアされます。

4 コピー元の装置を選択し、次へをクリックします。



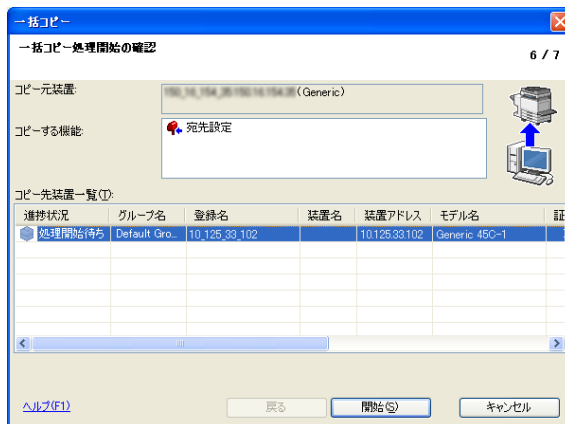
- 選択：コピー元となる装置を選択します。コピー元の装置をリストから選択し、**選択**をクリックします。
ローカルファイルもコピー元の装置として選択可能です。
- パスワード変更：登録装置の管理者パスワードを変更します。

5 コピー先の装置を選択し、次へをクリックします。

[illegible]

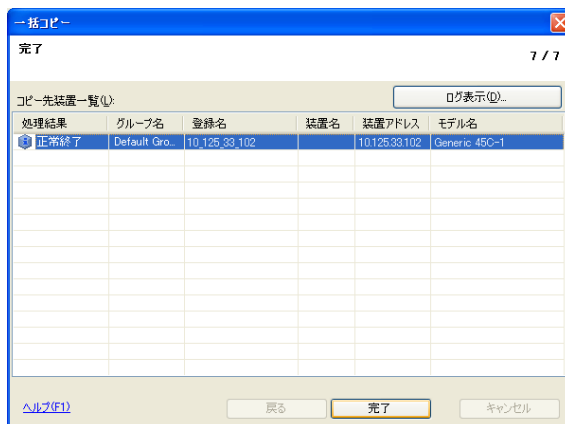
- 認証機能のコピーを行う場合、コピー先装置の認証設定がオフの装置しか選択できません。また、ローカルファイルで登録された装置を、コピー先として選択することはできません。
- 選択：コピーする装置を選択します。コピー先の装置をリストから選択し、**選択**をクリックします。
- 解除：選択された装置を解除します。選択解除したい装置をリストから選択し、**解除**をクリックします。
- パスワード変更：登録装置の管理者パスワードを変更します。
- 「次へ」で書き込み処理開始：コピー内容を確認せずに、装置へ書き込みたい場合にチェックします。この項目にチェックをつけて**次へ**をクリックすると、装置への書き込みを開始します。この場合、設定してある装置の管理者パスワードが間違っている、その装置への書き込みは中止されます。
- 生体認証やICカード情報については、コピー元とコピー先の認証装置が一致している場合のみコピーされます。ローカルファイルからもこれらの生体・カード情報もコピーされます。

6 コピー内容を確認し、開始をクリックします。



- 宛先設定をコピーする場合、コピー先装置の宛先情報がクリアされ、上書きされますのでご注意ください。
- コピー先装置を選択してください。画面で、「次へ」で書き込み処理開始にチェックをつけていた場合、この画面は表示されません。

7 コピー先装置一覧の処理結果に正常終了と表示されたら、完了をクリックします。



- 装置と IPV6 で通信する場合、通常より書き込み時間が遅くなる場合があります。
- ログ表示：一括コピー機能のログファイルを表示します。

3.7 短縮宛先の一括メンテナンス

装置に登録されている短縮宛先を一括でメンテナンスできます。

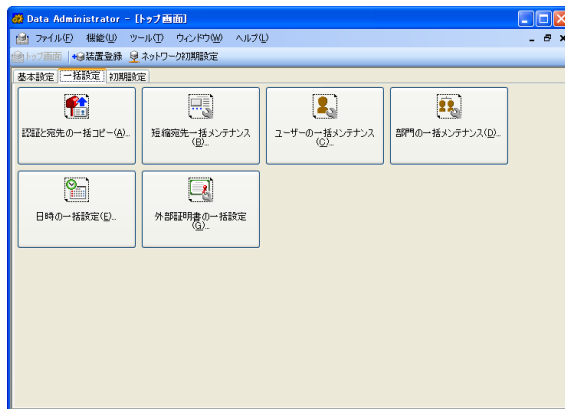


ワンポイント

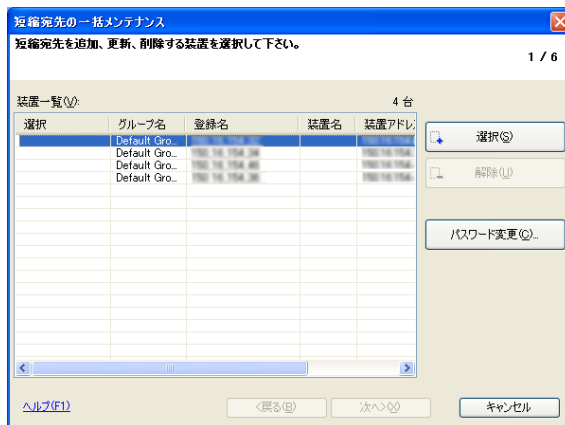
装置やファームウェアのバージョンによって、本機能が使用できないことがあります。

短縮宛先一括メンテナンス

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 [一括設定] タブをクリックし、[短縮宛先一括メンテナンス] を選択します。



- 3 短縮宛先をメンテナンスする装置をリストから選択して、「選択」をクリックします。



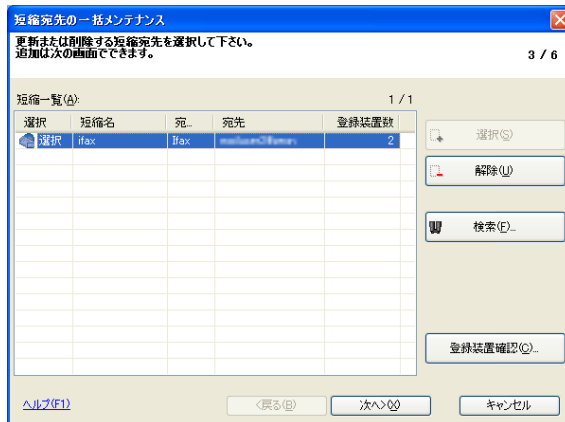
- 装置の管理者パスワードを変更する場合は、「パスワード変更」をクリックしてパスワードを変更します。

- 4 「次へ」をクリックします。

- 5 「次へ」をクリックします。



6 「次へ」 をクリックします。



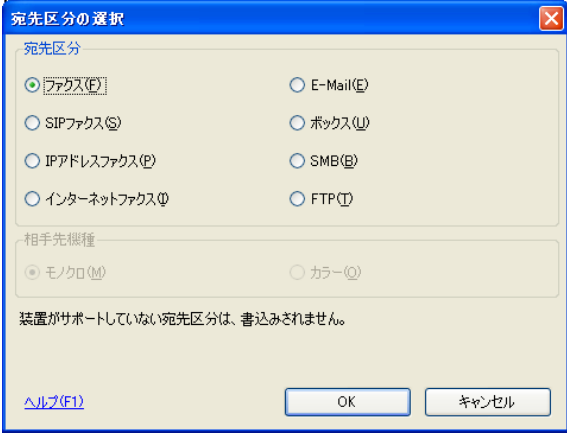
- 短縮情報を更新または削除する場合は「選択」をクリックします。
- キーワード検索する場合は「検索」をクリックします。
- 装置の情報を確認するには「登録装置確認」をクリックします。

7 「追加」 をクリックします。



- 短縮情報を編集する場合は「編集」をクリックします。
- 短縮情報を削除する場合は「削除」をクリックします。
- 短縮情報を複製する場合は「複製を追加」をクリックします。
- 短縮情報をファイルから読み込む場合は「ファイルから読み込み」をクリックしてファイルを指定します。

- 8 宛先区分を指定して [OK] をクリックします。



宛先区分の選択

宛先区分

☒ ファクス(F) ☐ E-Mail(E)

☐ SIPファクス(S) ☐ ボックス(U)

☐ IPアドレスファクス(P) ☐ SMB(B)

☐ インターネットファクス(I) ☐ FTP(T)

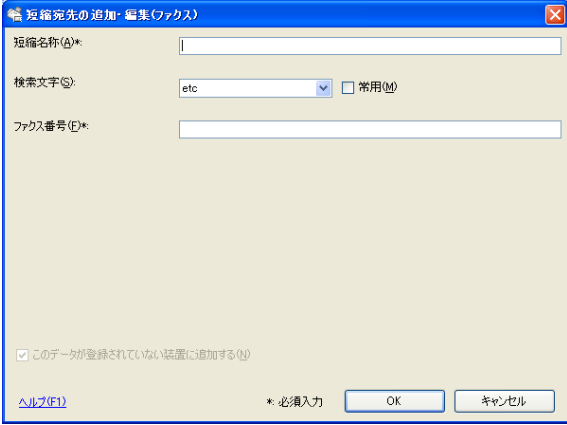
相手先機種

☒ モノクロ(M) ☐ カラー(C)

装置がサポートしていない宛先区分は、書き込まれません。

[ヘルプ\(F1\)](#)

- 9 短縮名称、検索文字、宛先を設定して [OK] をクリックします。



短縮宛先の追加・編集(ファクス)

短縮名称(N)*

検索文字(S): etc ☐ 常用(M)

ファクス番号(F)*

☒ このデータが登録されていない装置に追加する(A)

[ヘルプ\(F1\)](#) * 必須入力

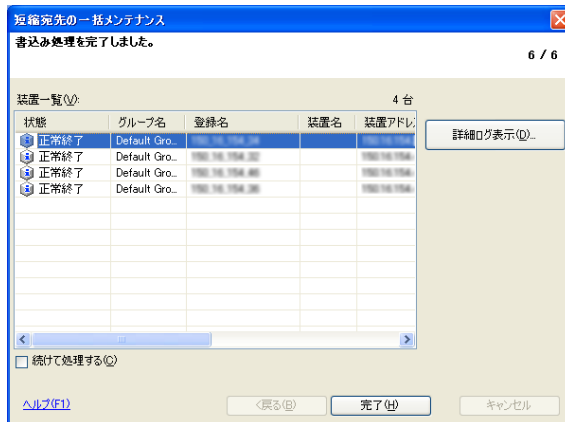
10 [次へ] をクリックします。



11 [開始] をクリックします。



12 [完了] をクリックします。



- ログの詳細を確認するには「詳細ログ表示」をクリックします。短縮宛先が装置に書き込まれます。

3.8 ユーザーの一括メンテナンス

装置に登録されているユーザーを一括でメンテナンスできます。

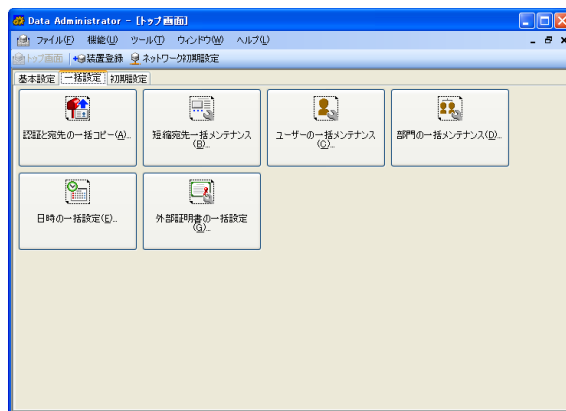


ワンポイント

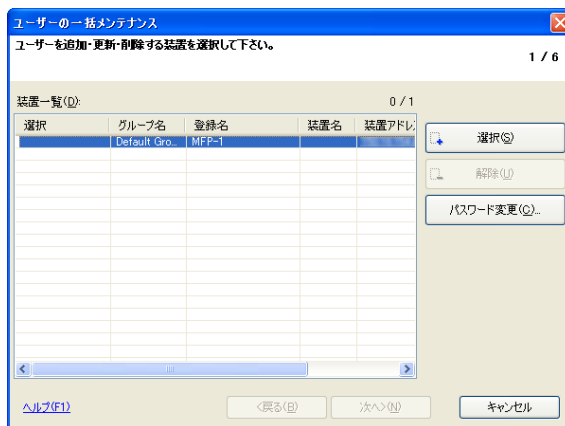
装置やファームウェアのバージョンによって、本機能が使用できないことがあります。

ユーザーの一括メンテナンス

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - o メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 [一括設定] タブをクリックし、[ユーザーの一括メンテナンス] を選択します。



- 3 ユーザー情報をメンテナンスする装置をリストから選択して、「選択」をクリックします。



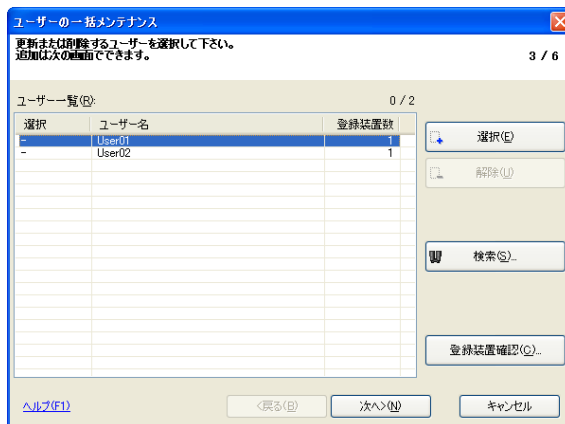
- 装置の管理者パスワードを変更する場合は、「パスワード変更」をクリックしてパスワードを変更します。

- 4 「次へ」をクリックします。

- 5 「次へ」をクリックします。

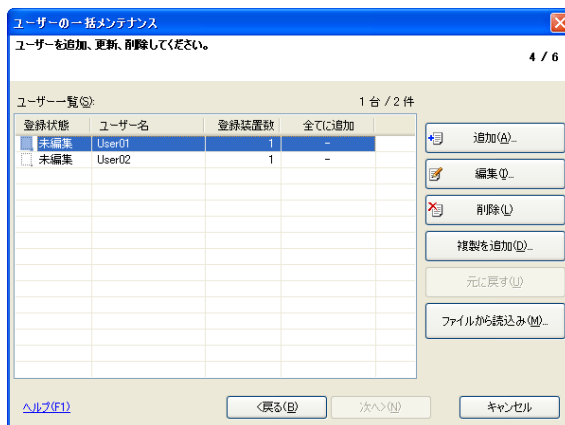


6 「次へ」 をクリックします。



- ユーザー情報を更新または削除する場合は「選択」をクリックします。
- キーワード検索する場合は「検索」をクリックします。
- 装置の情報を確認するには「登録装置確認」をクリックします。

7 「追加」 をクリックします。



- ユーザー情報を編集する場合は「編集」をクリックします。
- ユーザー情報を削除する場合は「削除」をクリックします。
- ユーザー情報を複製する場合は「複製を追加」をクリックします。
- ユーザー情報をファイルから読み込む場合は「ファイルから読み込み」をクリックしてファイルを指定します。

- 8 ユーザーテンプレートを指定して [OK] をクリックします。

ユーザーテンプレート選択

ユーザーのテンプレートを選択して下さい

No.	テンプレート名	許可機能	上限値管理
1*	system	すべて許可	

[ヘルプ\(F1\)](#)

OK キャンセル

- 9 ユーザー名、パスワード、E-Mail アドレス、機能制限、カウンターの上限値を設定して [OK] をクリックします。

ユーザー編集

ユーザー名(U)*:

パスワード(P):

E-Mailアドレス(M):

部門(A):

機能制限 **カンターの上限値** **一時利用停止**

機能制限(E)

- ☒ 出力許可(カラー)
- ☒ 出力許可(ブラック)
- ☒ コピー操作
- ☒ スキャン操作
- ☒ ファクス操作
- ☒ 蓄積文書操作
- ☒ プリンター印刷
- ☒ 送信機能の可/不可
- ☒ カラー送信許可

手動宛先入力許可(O)

☒ このデータが登録されていない位置に追加する(O)

[ヘルプ\(F1\)](#) *: 必須入力

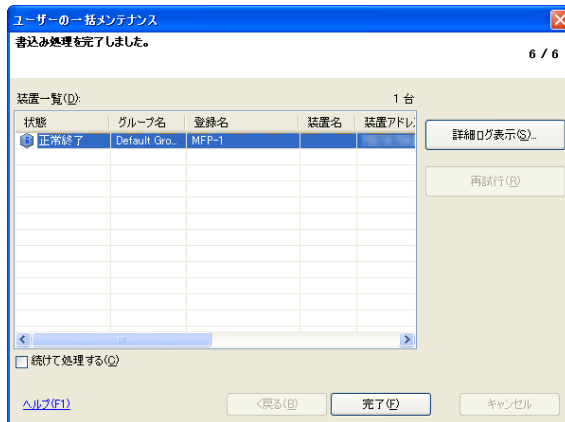
10 [次へ] をクリックします。

[illegible]

11 **「開始」** をクリックします。

[illegible]

12 [完了] をクリックします。



- ログの詳細を確認するには「詳細ログ表示」をクリックします。ユーザー情報が装置に書き込まれます。

3.9 部門の一括メンテナンス

装置に登録されている部門を一括でメンテナンスできます。

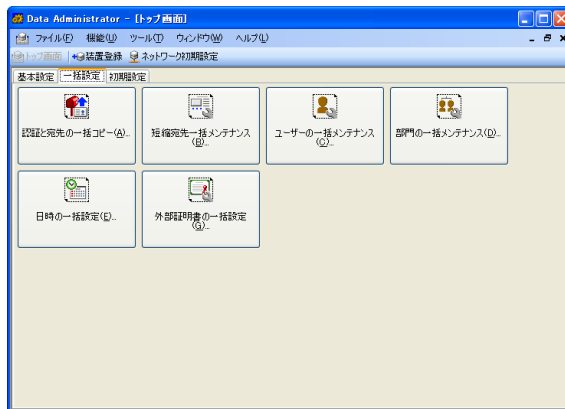


ワンポイント

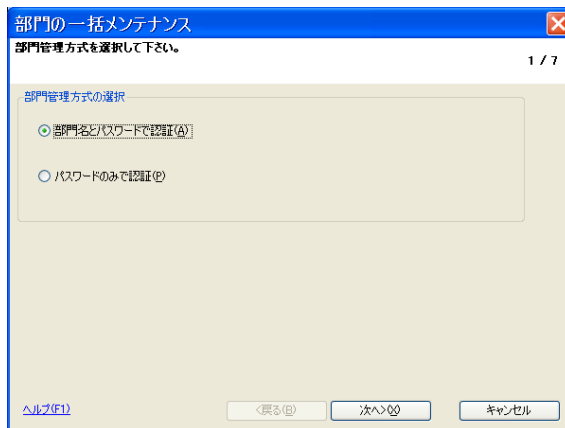
装置やファームウェアのバージョンによって、本機能が使用できないことがあります。

部門の一括メンテナンス

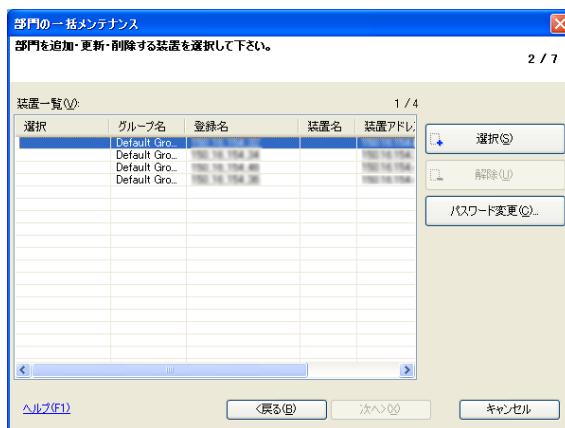
- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 [一括設定] タブをクリックし、[部門の一括メンテナンス] を選択します。



- 3** 部門管理方式を選択し、[次へ] をクリックします。



- 4** 部門の情報をメンテナンスする装置をリストから選択して、[選択]をクリックします。



- 装置の管理者パスワードを変更する場合は、[パスワード変更]をクリックしてパスワードを変更します。

- 5** [次へ] をクリックします。

6 [次へ] をクリックします。

[illegible]

7 [次へ] をクリックします。

[illegible]

- 部門情報を更新または削除する場合は「選択」をクリックします。
- キーワード検索する場合は「検索」をクリックします。
- 装置の情報を確認するには「登録装置確認」をクリックします。

8 「追加」 をクリックします。



- 部門情報を編集する場合は「編集」をクリックします。
- 部門情報を削除する場合は「削除」をクリックします。
- 部門情報を複製する場合は「複製を追加」をクリックします。
- 部門情報をファイルから読み込む場合は「ファイルから読み込み」をクリックしてファイルを指定します。

9 部門テンプレートを指定して「OK」をクリックします。



- 10** 部門名、パスワード、許可機能、カウンター上限値を設定して
[OK] をクリックします。

部門編集

部門名(A)*: (半角8文字以内)

パスワード(P): (半角8文字以内)

許可機能(B):

- ☒ 出力許可(ブラック)
- ☒ 出力許可(カラー)
- ☒ カラー送信許可

カウンターの上限値 一時利用停止

	現在の上限値		上限値
トータル:	- <input type="checkbox"/> 設定する(T)	<input type="text"/>	(1-999999999)
カラー:	- <input type="checkbox"/> 設定する(E)	<input type="text"/>	(1-999999999)
ブラック:	- <input type="checkbox"/> 設定する(S)	<input type="text"/>	(1-999999999)

☒ このデータが登録されていない装置に追加する(D)

ヘルプ(F1)

*: 必須入力

OK キャンセル

- 11** [次へ] をクリックします。

[illegible]

3.10 日時の変更

Data Administrator に登録した装置の日時を変更します。

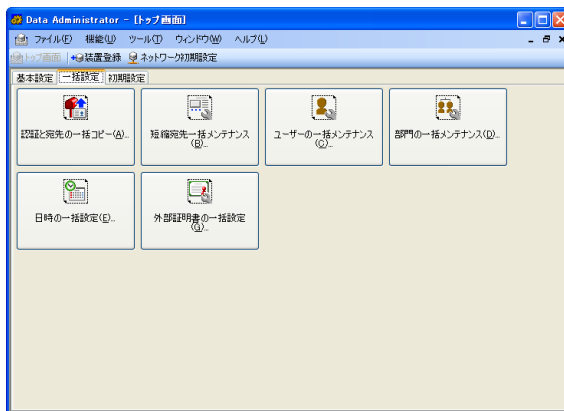


ワンポイント

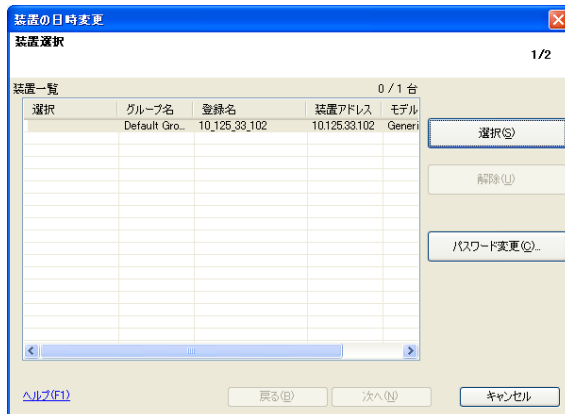
装置によって対応していない場合があります。

装置の日時を変更する

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 [一括設定] タブをクリックし、[日時の一括設定] をクリックします。



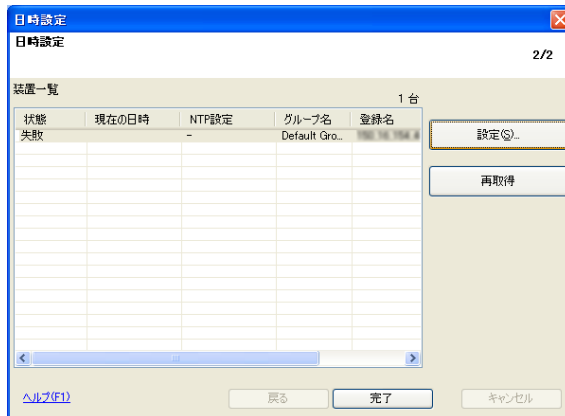
- 3 日時を設定する装置を選択して「選択」をクリックします。



- 複数の装置が選択可能です。
- 装置の管理者パスワードを変更する場合は、[パスワード変更] をクリックしてパスワードを変更します。

- 4 「次へ」をクリックします。

- 5 「設定」をクリックします。



- リスト内の状態欄に「失敗」と表示されている場合は、[再取得] をクリックして、装置の時刻情報を再取得します。

6 日時の設定をして「設定変更」をクリックします。

○ 時刻を設定する

装置の時刻設定を変更するときに選択します。

PC 日時に設定：Data Administrator を操作しているコンピュータの日時に合わせる場合に選択します。

NTP サーバー設定：NTP サーバーと同期させる場合に選択します。NTP サーバーアドレスとポート番号を入力します。

手動設定：日時を手動で設定する場合に選択します。

年月日：年月日を選択します。

時間：時、分を入力します。

タイムゾーンを設定する：タイムゾーンを設定するときにチェックします。GMT(グリニッジ標準時)との差を選択します。

○ サマータイムを設定する

装置のサマータイム設定を変更するときに選択します。

有効：サマータイムを使用するときに選択し、分単位で時間を入力します。

無効：サマータイムを使用しないときに選択します。

7 「完了」をクリックします。

日時が設定されます。

3.11 外部証明書の一括設定

Data Administrator に登録した装置の外部証明書を、一括で設定できます。



ワンポイント

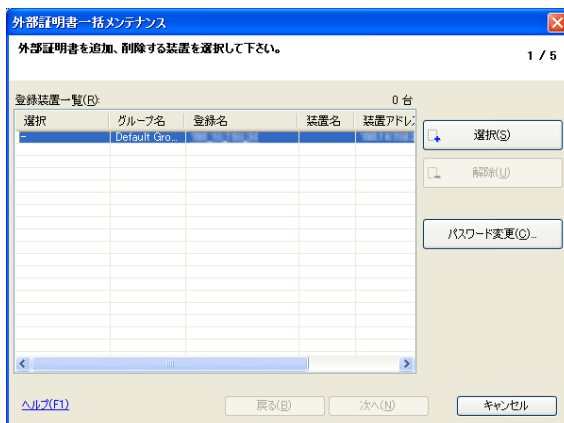
装置やファームウェアのバージョンによって、本機能が使用できないことがあります。

外部証明書の一括設定

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - o メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 [一括設定] タブをクリックし、[外部証明書の一括設定] をクリックします。

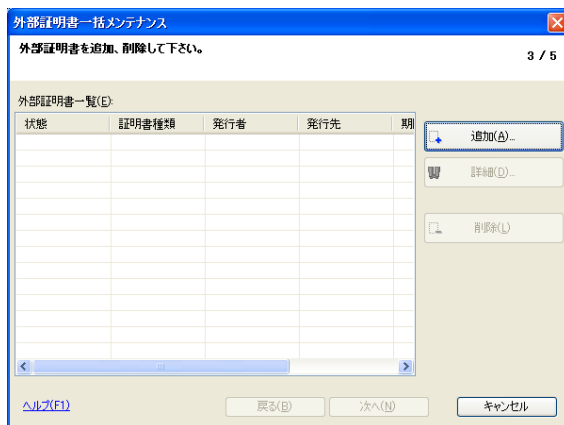


- 3 外部証明書を設定する装置をリストから選択して、[選択] をクリックします。

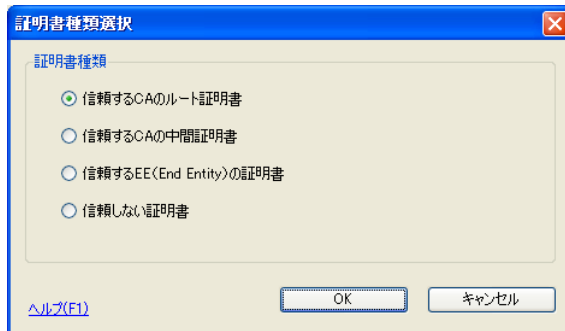


- 複数の装置が選択可能です。
- 選択した装置を解除する場合は、[解除] をクリックします。
- 装置の管理者パスワードを変更する場合は、[パスワード変更] をクリックしてパスワードを変更します。

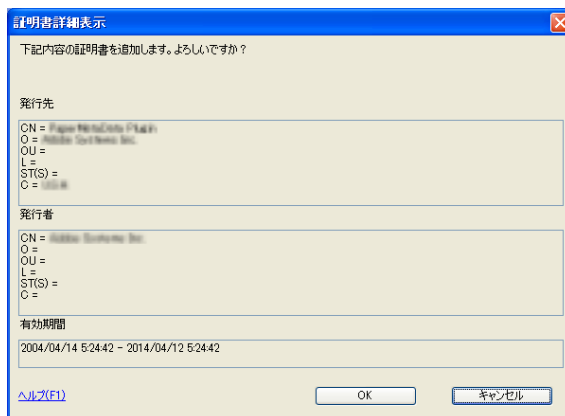
- 4 管理者パスワード画面が表示された場合は、装置の管理者パスワードを入力して [OK] をクリックします。
- 5 [次へ] をクリックします。
- 6 [追加] をクリックします。



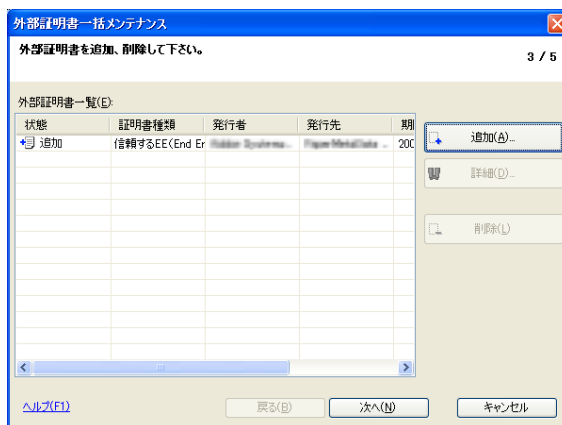
- 7 外部証明書の種類を選択し、[OK] をクリックします。



- 8 外部証明書ファイルを指定し、[開く] をクリックします。
外部証明書の内容が表示されます。
- 9 外部証明書の内容を確認し、[OK] をクリックします。



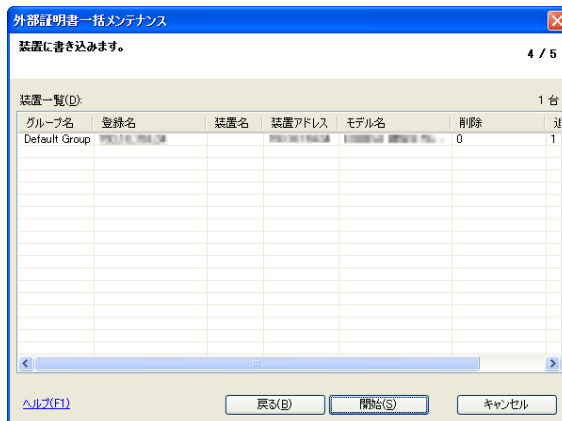
- 10 追加した外部証明書がリストに表示されます。[次へ] をクリックします。



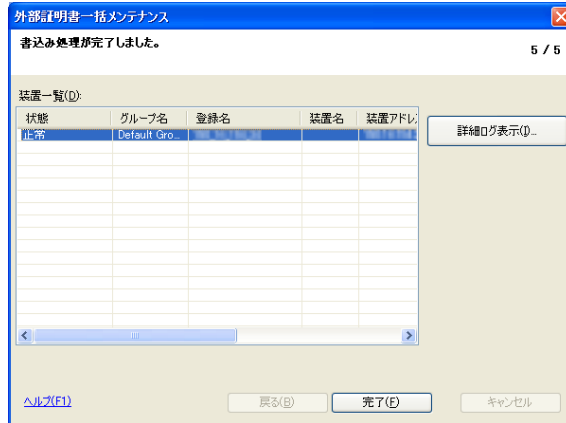
- 選択した外部証明書の内容を表示する場合は、[詳細] をクリックします。
- 選択した外部証明書を削除する場合は、[削除] をクリックします。

- 11 [開始] をクリックします。

外部証明書の書き込みが開始します。



12 [完了] をクリックします。



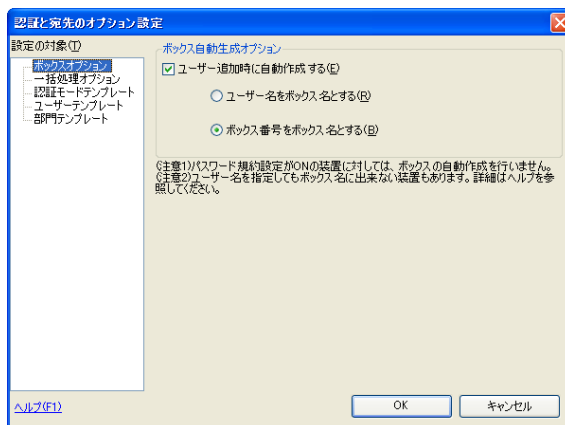
- ログの詳細を確認する場合は、[詳細ログ表示] をクリックします。

3.12 ボックスの自動作成

ユーザーの追加時に自動的にボックスを作成するかを設定します。この設定は 1 台装置設定や一括コピーなどに有効です。

ボックス自動作成を設定する

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示については、p. 3-1 をごらんください。
- 2 ツールメニューから [オプション] - [認証 / 宛先設定オプション] を選択します。
- 3 ボックス自動生成オプションを選択し、OK をクリックします。



- ユーザー追加時に自動作成する：ユーザー追加時にボックスを自動作成する場合にチェックします。数百人など多くのユーザーを追加する場合、本機能を有効にすると装置への書き込み時間がかかります。多くのユーザーを追加する時は、本機能を自動作成しないに設定することを推奨します。

ボックス設定が設定されます。



ワンポイント

ボックスは下記の設定で自動作成されます。

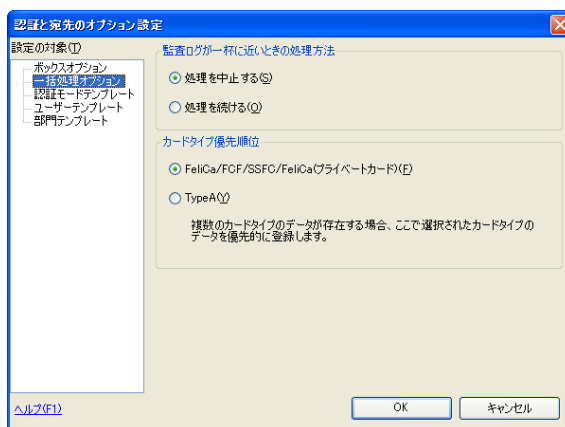
- パスワード：未設定
- 検索キー：etc

3.13 一括処理オプション

一括処理機能を使用時に、装置の監査ログが一杯に近いときの処理方法を指定します。また、2 種の IC カードに対応している装置に書き込む場合に、どのタイプの IC カードを優先して書き込むかを選択します。

一括処理オプションを設定する

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ツールメニューから [オプション] - [認証 / 宛先設定オプション] を選択します。
- 3 一括処理オプションを選択し、OK をクリックします。



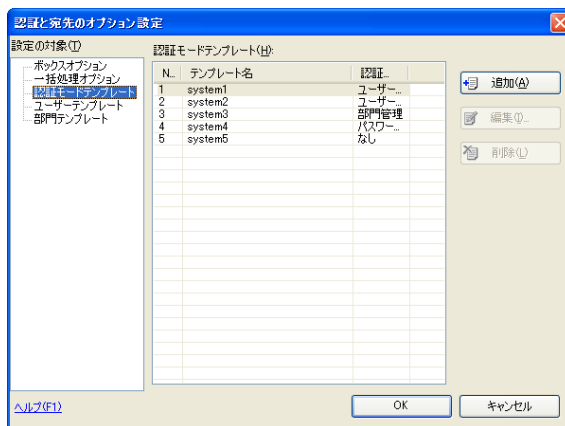
- 処理を中止する：
装置の監査ログが一杯に近いときは処理を中止します。
 - 処理を続ける：
装置の監査ログが一杯に近くても処理を続けます。
 - FeliCa/FCF/SSFC/FeliCa (プライベートカード)：
FeliCa/FCF/SSFC/FeliCa (プライベートカード) を優先します。
 - TypeA：
TypeA を優先します。
- 一括処理オプションが設定されます。

3.14 認証モードのテンプレート設定

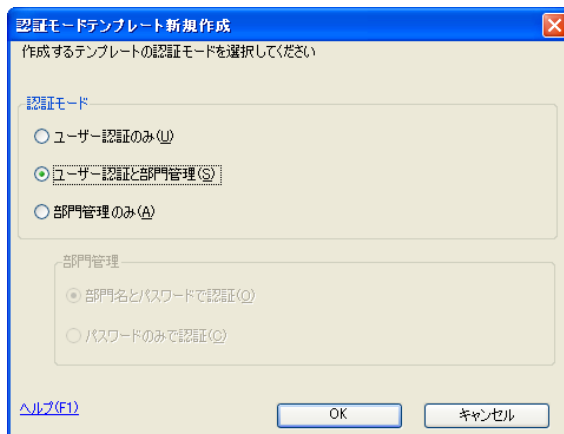
装置の認証モードを設定する際のテンプレートを作成します。テンプレートは最大 100 件まで登録でき、5 つの System テンプレートが最初から用意されています。

認証モードテンプレートを作成する

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示については、p. 3-1 をごらんください。
- 2 ツールメニューから [オプション] - [認証 / 宛先設定オプション] を選択します。
- 3 設定の対象から [認証モードテンプレート] を選択します。
- 4 追加をクリックします。

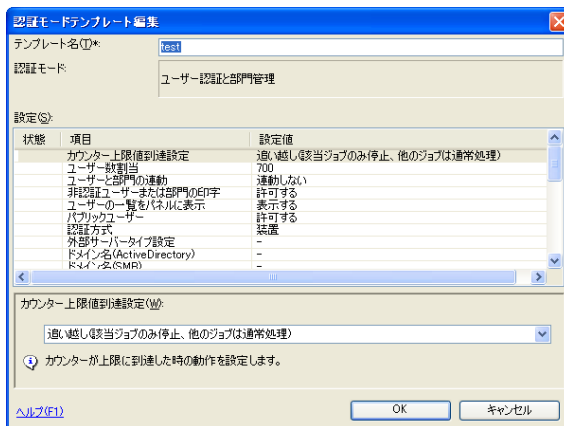


5 認証モードを設定し、OK をクリックします。



- 認証モード：認証モードをユーザー認証のみ、ユーザー認証と部門管理、部門管理のみから選択します。
- 部門管理：認証モードで部門管理のみを選択した場合に、部門管理を部門名とパスワードで認証、パスワードのみで認証から選択します。

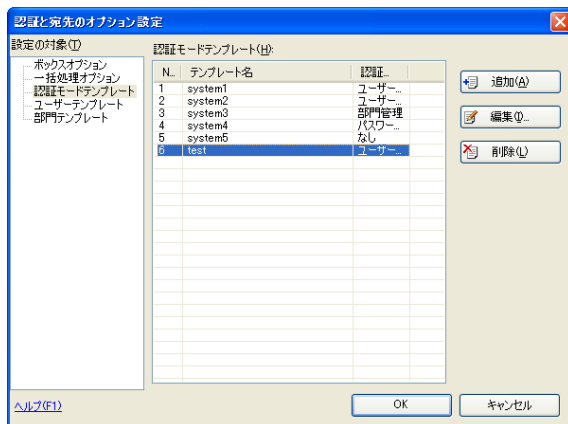
6 テンプレートを設定し、OK をクリックします。



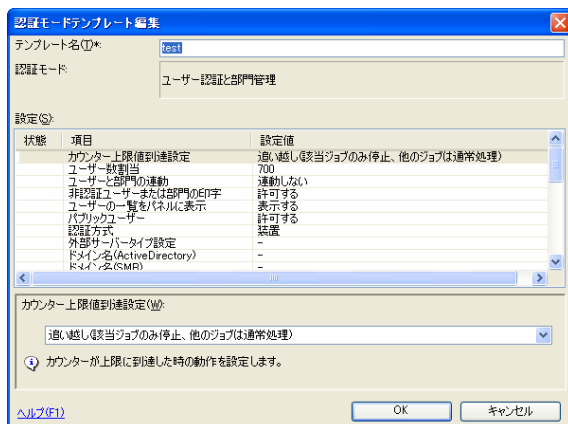
- テンプレート名：作成するテンプレート名を入力します。
- 設定：認証モードを設定します。設定項目の詳細情報は「認証モードテンプレートの設定項目」(p. 4-1) をご参照ください。テンプレートが作成されます。

認証モードテンプレートを編集する

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ツールメニューから［オプション］ - ［認証 / 宛先設定オプション］を選択します。
- 3 設定の対象から［認証モードテンプレート］を選択します。
- 4 リストから編集したいテンプレートを選択して編集をクリックします。



- 5 テンプレートを設定し、OK をクリックします。



- 設定方法は「認証モードテンプレートを作成する」(p. 3-57) をご参照ください。
テンプレートが編集されます。



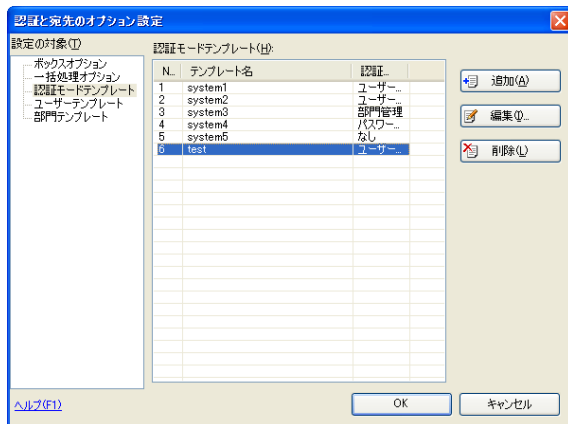
...

ワンポイント

5 つの System テンプレート名は変更できません。

認証モードテンプレートを削除する

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 ○ メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ツールメニューから［オプション］ - ［認証 / 宛先設定オプション］を選択します。
- 3 設定の対象から［認証モードテンプレート］を選択します。
- 4 リストから削除したいテンプレートを選択して削除をクリックします。



- 5 はいをクリックします。



認証モードテンプレートが削除されます。



ワンポイント

5 つの System テンプレートは削除できません。

5 テンプレートを設定し、OK をクリックします。

ユーザーテンプレート編集

テンプレート名(C)*: test

機能制限

初期機能制限(D)

- ☒ 出力許可(カラー)
- ☒ 出力許可(ブラック)
- ☒ コピー操作許可
- ☒ スキャン操作許可
- ☒ ファックス操作許可
- ☒ 蓄積文書操作許可
- ☒ プリンター印字許可
- ☒ 送信機能の印字許可
- ☒ カラー送信許可

☒ テンプレートに存在しない項目を全て「許可」で設定する。

カウンターの上限値設定

		上限値
トータル:	<input type="checkbox"/> 選択(L)	(1-99999999)
カラー:	<input type="checkbox"/> 選択(E)	(1-99999999)
ブラック:	<input type="checkbox"/> 選択(S)	(1-99999999)

ヘルプ(F1) * 必須入力 OK キャンセル

- テンプレート名：作成するテンプレート名を入力します。
 - 機能制限：各機能制限に対して、許可するものにチェックします。
 - トータル：ユーザーのプリント枚数に上限を設定する場合にチェックします。ここを選択した場合はカラー、ブラックのチェックが外れます。
 - カラー：ユーザーのカラープリント枚数に上限を設定する場合にチェックします。ここを選択した場合はトータルのチェックが外れます。
 - ブラック：ユーザーの白黒プリント枚数に上限を設定する場合にチェックします。ここを選択した場合はトータルのチェックが外れます。
 - 上限値：各カウンターの上限値を入力します。
- テンプレートが作成されます。



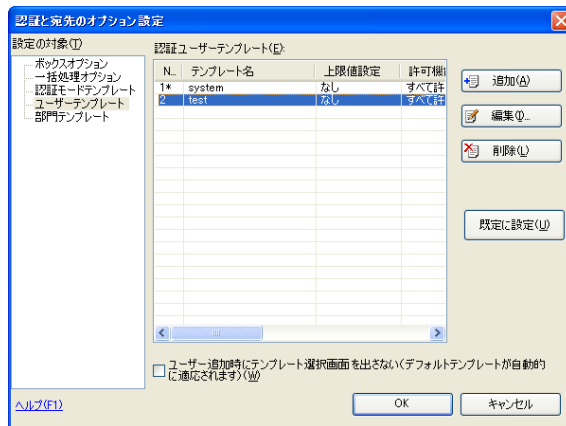
ワンポイント

装置により上限値の最大値の範囲が異なります。

装置情報読み込み画面でテンプレートを選択し、追加時にエラーとなる場合があります。その場合は、上限値を装置の最大値以内に設定してください。

ユーザーテンプレートを編集する

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ツールメニューから [オプション] - [認証 / 宛先設定オプション] を選択します。
- 3 設定の対象から [ユーザーテンプレート] を選択します。
- 4 リストから編集したいテンプレートを選択して編集をクリックします。



5 テンプレートを設定し、OK をクリックします。

ユーザーテンプレート編集

テンプレート名 (I)*: test

機能制限

初期機能制限 (I)

- ☒ 出力許可 (カラー)
- ☒ 出力許可 (ブラック)
- ☒ コピー操作許可
- ☒ スキャン操作許可
- ☒ ファクス操作許可
- ☒ 書籍文書操作許可
- ☒ プリンター印字許可
- ☒ 送信機能の印字許可
- ☒ カラー送信許可

☒ テンプレートに存在しない項目を全て「許可」で設定する。

カウンターの上限値設定

		上限値
トータル:	<input type="checkbox"/> 選択 (L)	(1-999999999)
カラー:	<input type="checkbox"/> 選択 (C)	(1-999999999)
ブラック:	<input type="checkbox"/> 選択 (B)	(1-999999999)

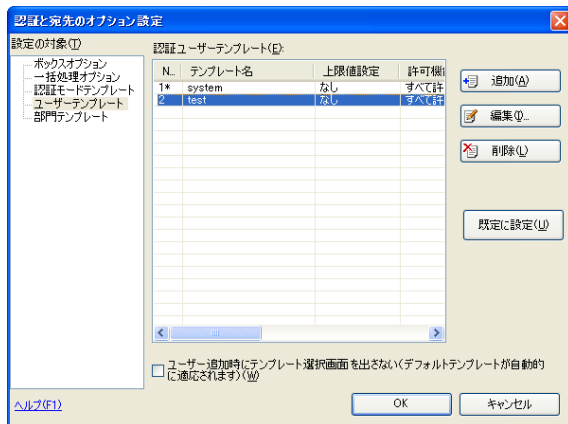
ヘルプ (F1) * 必須入力 OK キャンセル

- 設定方法は「ユーザーテンプレートを作成する」(p. 3-62) をご参照ください。

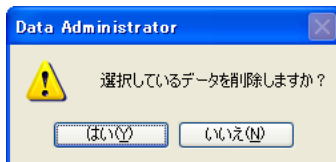
テンプレートが編集されます。

ユーザーテンプレートを削除する

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ツールメニューから［オプション］ - ［認証 / 宛先設定オプション］を選択します。
- 3 設定の対象から［ユーザーテンプレート］を選択します。
- 4 リストから削除したいテンプレートを選択して削除をクリックします。



- 5 はいをクリックします。



ユーザーテンプレートが削除されます。

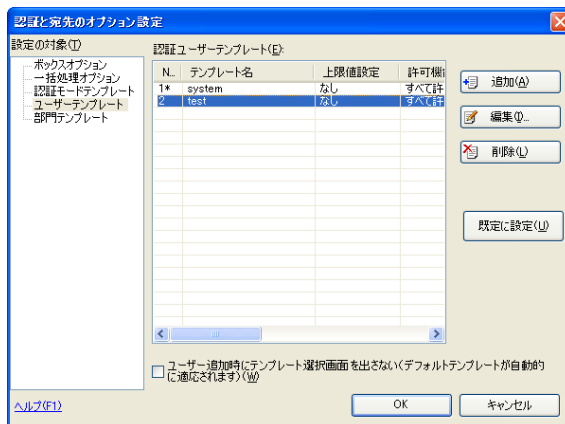


ワンポイント

System テンプレートは削除できません。

デフォルトのユーザーテンプレートを設定する

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ツールメニューから［オプション］ - ［認証 / 宛先設定オプション］を選択します。
- 3 設定の対象から［ユーザーテンプレート］を選択します。
- 4 デフォルトにするテンプレートをリストから選択し、既定に設定をクリックします。



デフォルトテンプレートが設定されます。



ワンポイント

デフォルトテンプレートには［*］が表示されます。

ユーザー追加時に既定のテンプレートを自動的に適用するをチェックすると、ユーザー作成時にデフォルトのユーザーテンプレートが適用されテンプレートを選択する画面は表示されません。

5 テンプレートを設定し、OK をクリックします。

部門テンプレート編集

テンプレート名(T)*: test

機能制限

初期機能制限(I)

- ☒ 出力許可(カラー)
- ☒ 出力許可(ブラック)
- ☒ カラー送信許可

カウンターの上限値設定

		上限値
トータル:	<input type="checkbox"/> 選択(L)	0 (1-999999999)
カラー:	<input type="checkbox"/> 選択(E)	0 (1-999999999)
ブラック:	<input type="checkbox"/> 選択(S)	0 (1-999999999)

ヘルプ(F1) *: 必須入力 OK キャンセル

- テンプレート名：作成するテンプレート名を入力します。
 - 機能制限：各機能制限に対して、許可するものにチェックします。
 - トータル：部門のプリント枚数に上限を設定する場合にチェックします。ここを選択した場合はカラー、ブラックのチェックが外れます。
 - カラー：部門のカラープリント枚数に上限を設定する場合にチェックします。ここを選択した場合はトータルのチェックが外れます。
 - ブラック：部門の白黒プリント枚数に上限を設定する場合にチェックします。ここを選択した場合はトータルのチェックが外れます。
 - 上限値：各カウンターの上限値を入力します。
- テンプレートが作成されます。

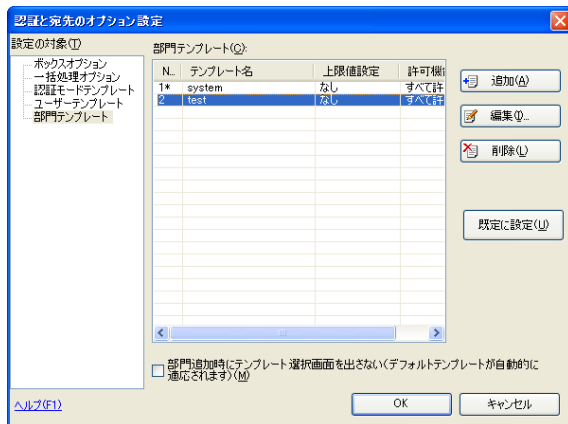
**ワンポイント**

装置により上限値の最大値の範囲が異なります。

装置情報読み込み画面でテンプレートを選択し、追加時にエラーとなる場合があります。その場合は、上限値を装置の最大値以内に設定してください。

部門テンプレートを編集する

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ツールメニューから［オプション］ - ［認証 / 宛先設定オプション］を選択します。
- 3 設定の対象から［部門テンプレート］を選択します。
- 4 リストから編集したいテンプレートを選択して編集をクリックします。



5 テンプレートを設定し、OK をクリックします。

部門テンプレート編集

テンプレート名(C)*: test

機能制限

初期機能制限(D)

- ☒ 出力許可(カラー)
- ☒ 出力許可(ブラック)
- ☒ カラー送信許可

ガウントナーの上限値設定

		上限値
トータル:	<input type="checkbox"/> 選択(L)	0 (1-99999999)
カラー:	<input type="checkbox"/> 選択(E)	0 (1-99999999)
ブラック:	<input type="checkbox"/> 選択(S)	0 (1-99999999)

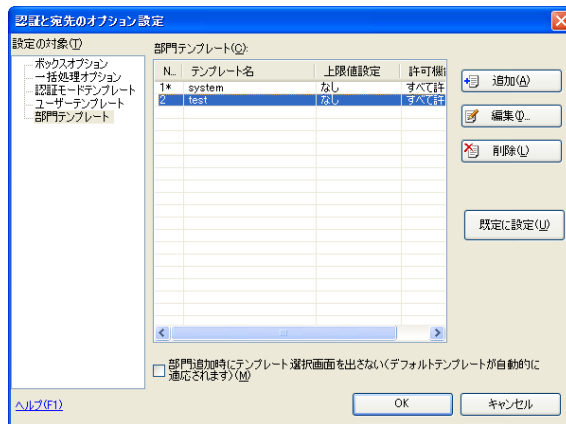
[ヘルプ\(F1\)](#) *: 必須入力 OK キャンセル

- 設定方法は「部門テンプレートを作成する」(p. 3-68) をご参照ください。

テンプレートが編集されます。

部門テンプレートを削除する

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ツールメニューから［オプション］ - ［認証 / 宛先設定オプション］を選択します。
- 3 設定の対象から［部門テンプレート］を選択します。
- 4 リストから削除したいテンプレートを選択して削除をクリックします。



- 5 はいをクリックします。

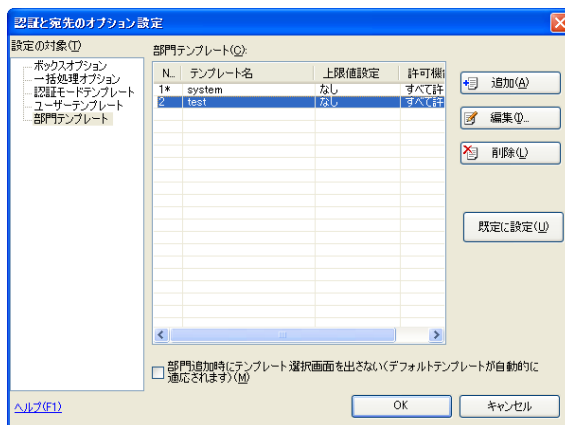


部門テンプレートが削除されます。

デフォルトの部門テンプレートを設定する

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ツールメニューから［オプション］ - ［認証 / 宛先設定オプション］を選択します。
- 3 設定の対象から［部門テンプレート］を選択します。

デフォルトにするテンプレートをリストから選択し、既定に設定をクリックします。



デフォルトテンプレートが設定されます。



ワンポイント

デフォルトテンプレートには［*］が表示されます。

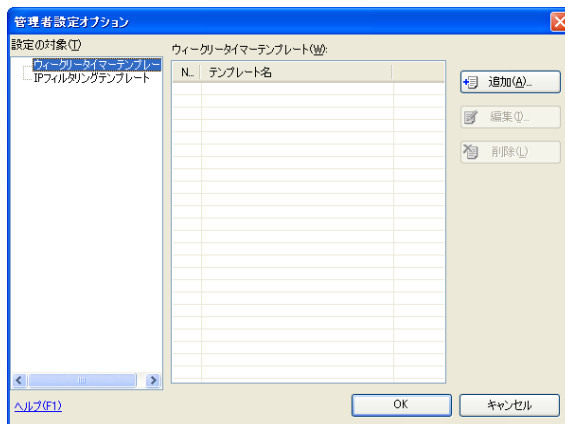
部門追加時に既定のテンプレートを自動的に適用するをチェックすると、部門作成時にデフォルトの部門テンプレートが適用されテンプレートを選択する画面は表示されません。

3.17 ウィークリータイマーのテンプレート設定

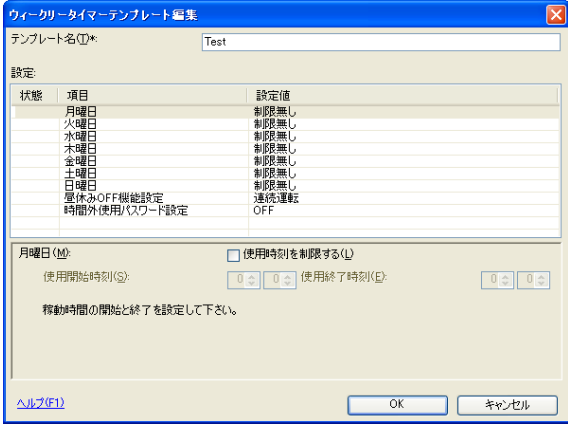
装置のウィークリータイマーを設定する際のテンプレートを作成します。ウィークリータイマーテンプレートは管理者設定の電源管理 — ウィークリータイマーで使用することができます。また、テンプレートは最大 100 件まで登録できます。

ウィークリータイマーテンプレートを作成する

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - o メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ツールメニューから [オプション] - [管理者設定オプション] を選択します。
- 3 設定の対象から [ウィークリータイマーテンプレート] を選択します。
- 4 追加をクリックします。



5 テンプレートを設定し、OK をクリックします。



ウィークリータイマーテンプレート編集

テンプレート名(ID)*:

設定:

状態	項目	設定値
	月曜日	制限無し
	火曜日	制限無し
	水曜日	制限無し
	木曜日	制限無し
	金曜日	制限無し
	土曜日	制限無し
	日曜日	制限無し
	昼休みOFF機能設定	連続運転
	時間外使用パスワード設定	OFF

月曜日(M): ☐ 使用時刻を制限する(L)

使用開始時刻(S): : 使用終了時刻(E): :

稼動時間の開始と終了を設定して下さい。

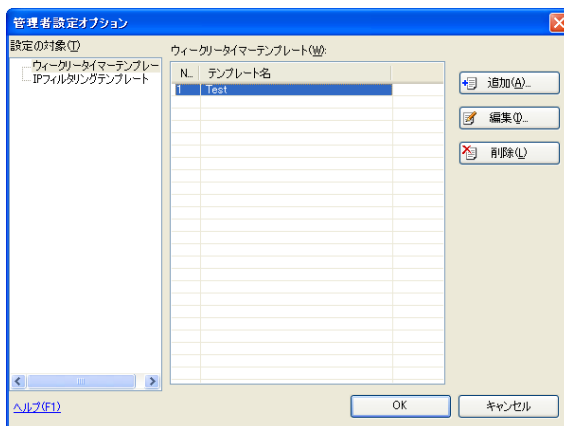
[ヘルプ\(F1\)](#)

- テンプレート名：作成するテンプレート名を入力します。
- 設定：ウィークリータイマーを設定します。設定項目の詳細情報は「ウィークリータイマーテンプレート設定項目」(p. 4-4)をご参照ください。

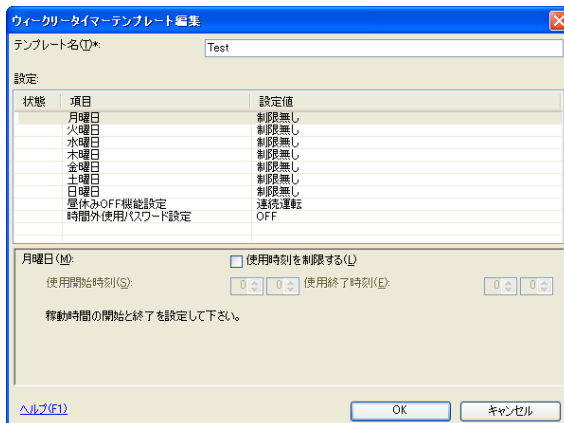
テンプレートが作成されます。

ウィークリータイマーテンプレートを編集する

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 ○ メイン画面の表示については、p. 3-1 をごらんください。
- 2 ツールメニューから［オプション］ - ［管理者設定オプション］を選択します。
- 3 設定の対象から［ウィークリータイマーテンプレート］を選択します。
- 4 リストから編集したいテンプレートを選択して編集をクリックします。



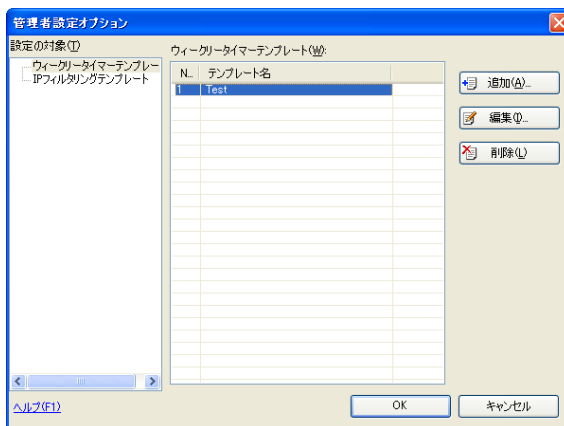
- 5 テンプレートを設定し、OK をクリックします。



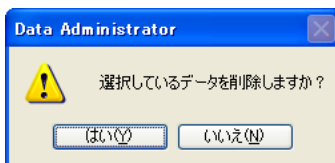
- 設定方法は「ウィークリータイマーテンプレートを作成する」(p. 3-74) をご参照ください。
テンプレートが編集されます。

ウィークリータイマーテンプレートを削除する

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ツールメニューから [オプション] - [管理者設定オプション] を選択します。
- 3 設定の対象から [ウィークリータイマーテンプレート] を選択します。
- 4 リストから削除したいテンプレートを選択して削除をクリックします。



- 5 はいをクリックします。



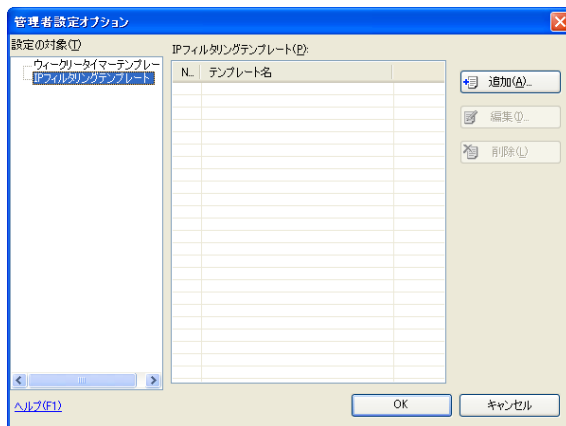
ウィークリータイマーテンプレートが削除されます。

3.18 IP フィルタリングのテンプレート設定

装置の IP フィルタリングを設定する際のテンプレートを作成します。
IP フィルタリングテンプレートは管理者設定のネットワーク設定
—TCP-IP 設定—IP フィルタリング設定で使うことができます。
テンプレートは最大 100 件まで登録できます。

IP フィルタリングテンプレートを作成する

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - o メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ツールメニューから [オプション] - [管理者設定オプション] を選択します。
- 3 設定の対象から [IP フィルタリングテンプレート] を選択します。
- 4 追加をクリックします。



5 テンプレートを設定し、OK をクリックします。

IPフィルタリングテンプレート編集

テンプレート名(T)*: Test

許可範囲

☐ IPアドレス許可設定を有効にする(A)

N.	IPアドレス範囲
1	0.0.0.0 - 0.0.0.0
2	0.0.0.0 - 0.0.0.0
3	0.0.0.0 - 0.0.0.0
4	0.0.0.0 - 0.0.0.0
5	0.0.0.0 - 0.0.0.0

編集(E)...

消去(D)

拒否範囲

☐ IPアドレス拒否設定を有効にする(A)

N.	IPアドレス範囲
1	0.0.0.0 - 0.0.0.0
2	0.0.0.0 - 0.0.0.0
3	0.0.0.0 - 0.0.0.0
4	0.0.0.0 - 0.0.0.0
5	0.0.0.0 - 0.0.0.0

編集(E)...

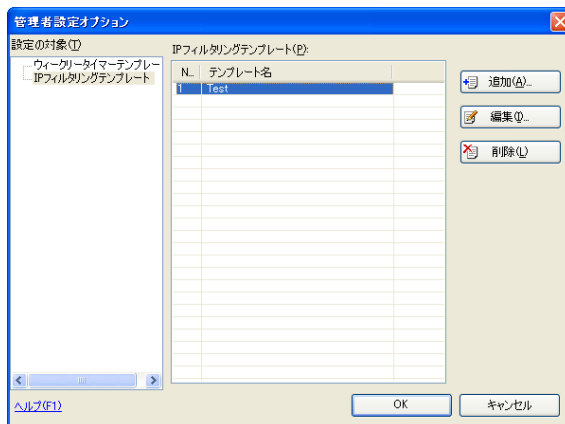
消去(D)

ヘルプ(F1) OK キャンセル

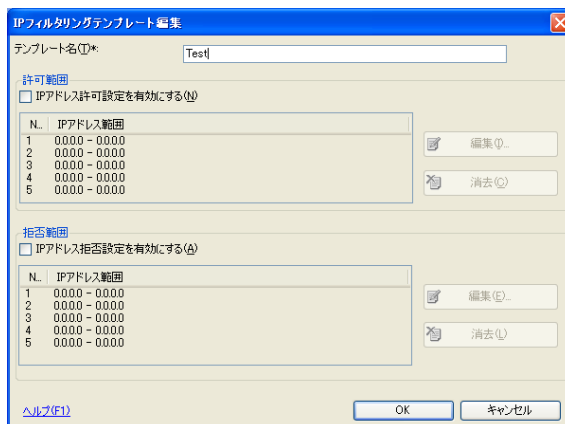
- テンプレート名：作成するテンプレート名を入力します。
 - IP アドレス許可設定を有効にする：
IP アドレスフィルタリングの許可設定を有効にする場合にチェックします。
 - 編集：
IP アドレスの許可範囲を設定します。
IP アドレス範囲編集画面が表示され、開始と終了の IP アドレスを入力し [OK] をクリックします。
 - 消去：
IP アドレスの許可範囲を削除します。IP アドレスの許可範囲をリストから選択し、消去をクリックします。
 - IP アドレス拒否設定を有効にする：
IP アドレスフィルタリングの拒否設定を有効にする場合にチェックします。
 - 編集：
IP アドレスの拒否範囲を設定します。
IP アドレス範囲編集画面が表示され、開始と終了の IP アドレスを入力し [OK] をクリックします。
 - 消去：
IP アドレスの拒否範囲を削除します。IP アドレスの拒否範囲をリストから選択し、消去をクリックします。
- テンプレートが作成されます。

IP フィルタリングテンプレートを編集する

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ツールメニューから［オプション］ - ［管理者設定オプション］を選択します。
- 3 設定の対象から［IP フィルタリングテンプレート］を選択します。
- 4 リストから編集したいテンプレートを選択して編集をクリックします。



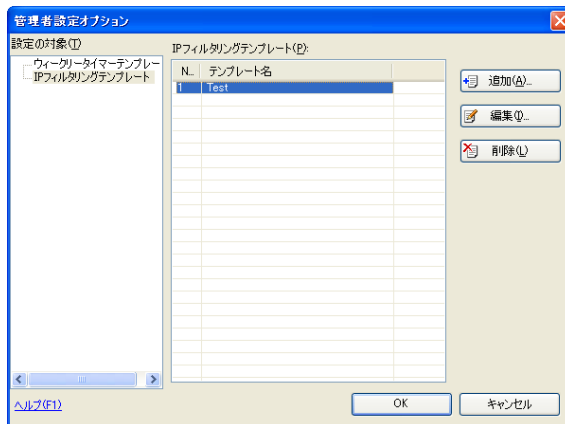
- 5 テンプレートを設定し、OK をクリックします。



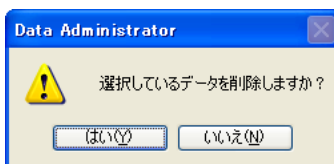
- 設定方法は「IP フィルタリングテンプレートを作成する」(p. 3-78) をご参照ください。
テンプレートが編集されます。

IP フィルタリングテンプレートを削除する

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 ツールメニューから [オプション] - [管理者設定オプション] を選択します。
- 3 設定の対象から [IP フィルタリングテンプレート] を選択します。
- 4 リストから削除したいテンプレートを選択して削除をクリックします。



- 5 はいをクリックします。



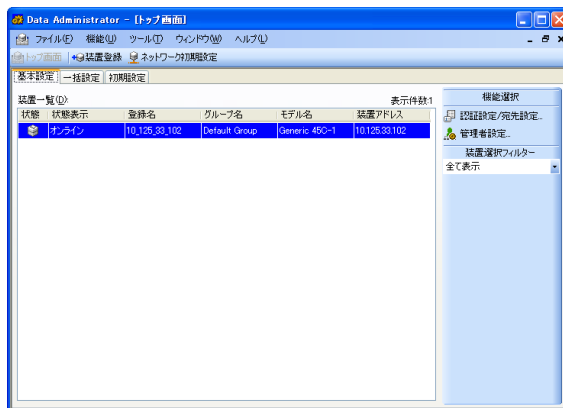
IP フィルタリングテンプレートが削除されます。

3.19 宛先と認証データのバックアップ / リストア

装置から読み込んだ宛先と認証データは、バックアップファイルとして書き出しておいて、リストアすることができます。

宛先と認証データのバックアップ

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 装置一覧で情報を読み込む装置を選択し、機能選択フィールドから「認証設定 / 宛先設定」をクリックします。



- 3 装置情報の読み込み方法を設定し、「読み込み」をクリックします。



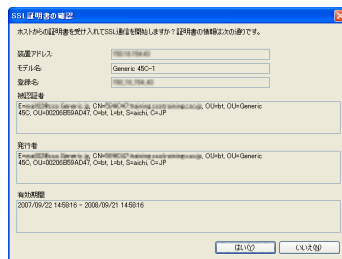


ワンポイント

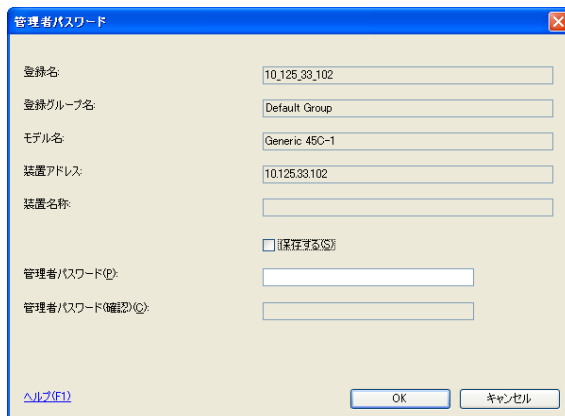
SSL 通信の設定によって以下の画面が表示されます。操作を続けるにはいずれも [はい] をクリックします。

SSL 通信が設定されていない場合

SSL 通信が設定されている場合

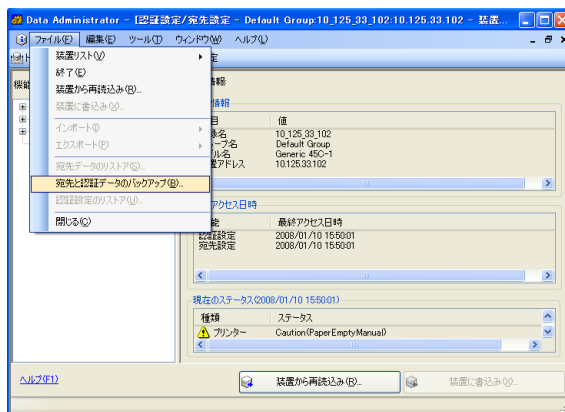


- 4 管理者パスワード画面が表示された場合は、装置の管理者パスワードを入力して [OK] をクリックします。

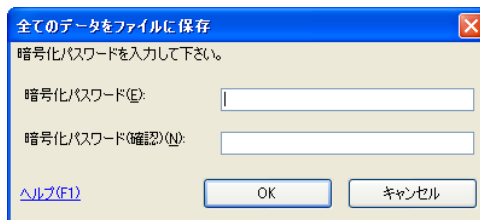


- [保存する] にチェックを入れると、次回以降にパスワードを入力する必要がなくなります。

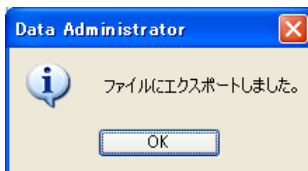
- 5 [ファイル] メニューから [宛先と認証データのバックアップ] を選択します。



- 6 バックアップファイルの保存先を指定して [保存] をクリックします。
- 7 バックアップファイルの暗号化パスワードを入力し、[OK] をクリックします。



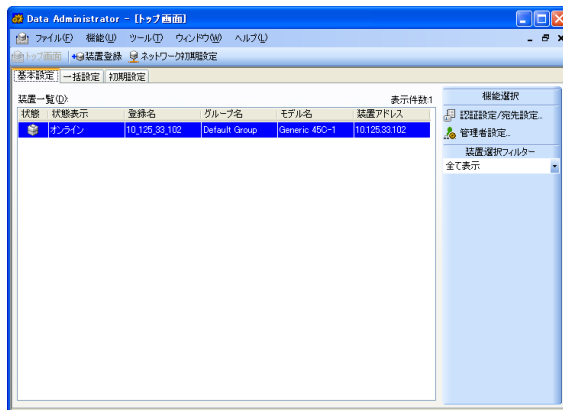
- 8 バックアップファイルが書き出されたのを確認して [OK] をクリックします。



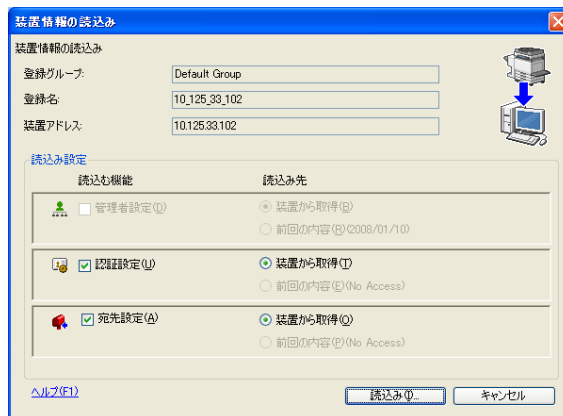
バックアップファイルが書き出されます。

宛先データのリストア

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 装置一覧で情報を読み込む装置を選択し、機能選択フィールドから「認証設定 / 宛先設定」をクリックします。



- 3 装置情報の読み込み方法を設定し、「読み込み」をクリックします。



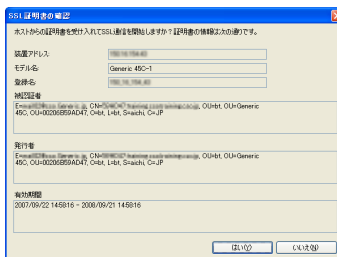


ワンポイント

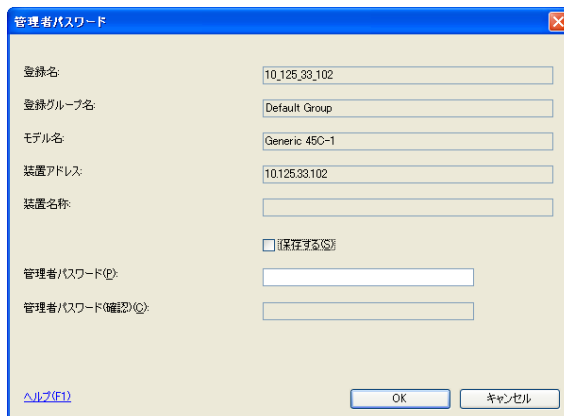
SSL 通信の設定によって以下の画面が表示されます。操作を続けるにはいずれも「はい」をクリックします。

SSL 通信が設定されていない場合

SSL 通信が設定されている場合

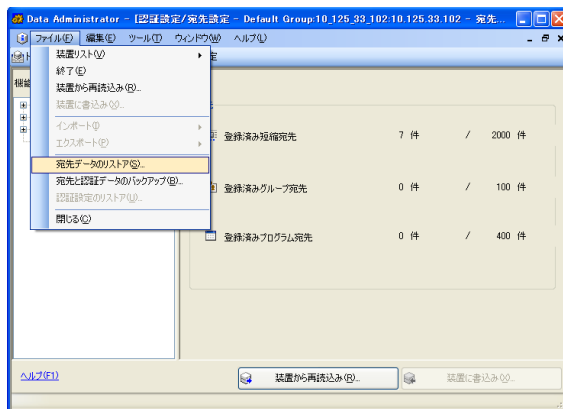


- 4 管理者パスワード画面が表示された場合は、装置の管理者パスワードを入力して「OK」をクリックします。

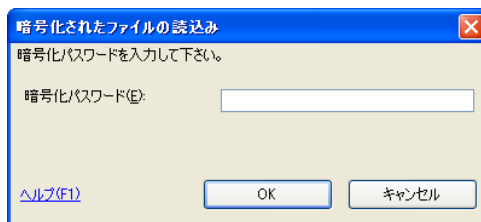


- 「保存する」にチェックを入れると、次回以降にパスワードを入力する必要がなくなります。

- 5 機能選択フィールドから「宛先設定」を選択し、「ファイル」メニューから「宛先データのリストア」を選択します。



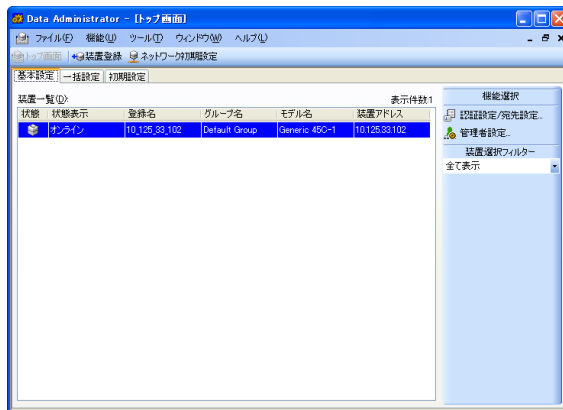
- 6 リストアするバックアップファイルを指定して「開く」をクリックします。
- 7 バックアップファイルの暗号化パスワードを入力し、「OK」をクリックします。



宛先データがリストアされます。

認証データのリストア

- 1 Data Administrator を起動してメイン画面を表示します。
 - メイン画面の表示については、p. 3-1 をご覧ください。
- 2 装置一覧で情報を読み込む装置を選択し、機能選択フィールドから「認証設定 / 宛先設定」をクリックします。



- 3 装置情報の読み込み方法を設定し、「読み込み」をクリックします。



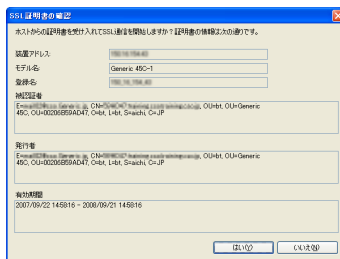
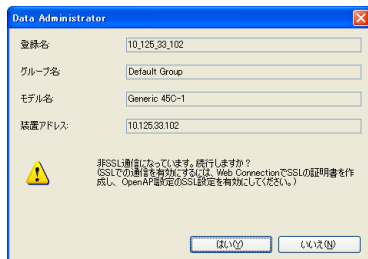


ワンポイント

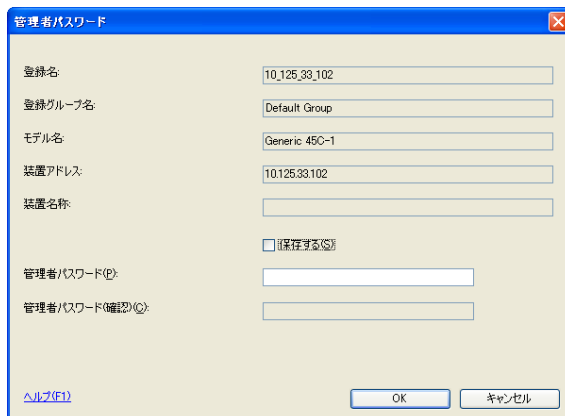
SSL 通信の設定によって以下の画面が表示されます。操作を続けるにはいずれも [はい] をクリックします。

SSL 通信が設定されていない場合

SSL 通信が設定されている場合

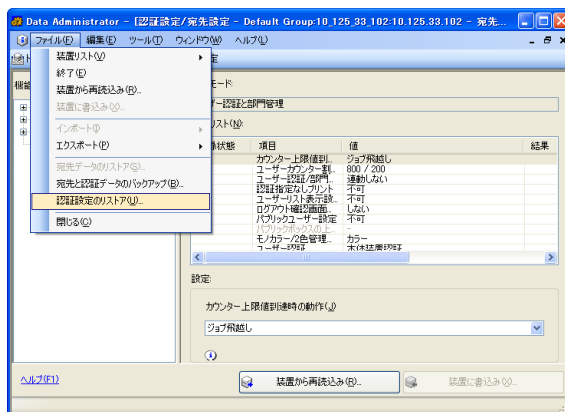


- 4 管理者パスワード画面が表示された場合は、装置の管理者パスワードを入力して [OK] をクリックします。

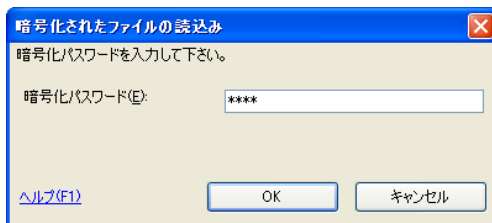


- [保存する] にチェックを入れると、次回以降にパスワードを入力する必要がなくなります。

- 5 機能選択フィールドから「認証設定」を選択し、[ファイル]メニューから「認証設定のリストア」を選択します。



- 6 リストアするバックアップファイルを指定して「開く」をクリックします。
- 7 バックアップファイルの暗号化パスワードを入力し、[OK] をクリックします。



8 認証設定リストアの設定を行い「次へ」をクリックします。

認証設定リストアウィザード
認証設定リストアの設定を行います。 1 / 4

認証設定のリストアを開始します。

部門・ユーザーカウンター

☒ バックアップ時の値に戻す
☐ ゼロに戻す

参照許可グループ

☒ リストアする
☐ リストアしない

認証装置設定

☐ する
☒ しない

⚠ 既存の参照許可グループが上書きされます

ヘルプ(F1) <戻る(B) 次へ(N) キャンセル

- バックアップ時の値に戻す：
部門、ユーザーカウンターも復元する場合はチェックします。
- ゼロに戻す：
部門、ユーザーカウンターを0にする場合はチェックします。
- 参照許可グループ - リストアする：
管理者設定の参照許可グループもリストアします。
- 参照許可グループ - リストアしない：
参照許可グループをリストアしません。

9 「開始」をクリックします。

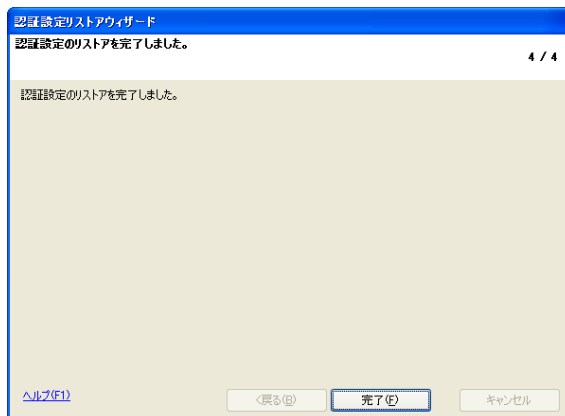
認証設定リストアウィザード
認証設定のリストアを開始します。 2 / 4

以下のバックアップ内容をリストアします。

項目	値
認証モード	ユーザー認証
カウンター上限値到達時の動作	ジョブ飛越し
認証指定なしプリント	許可
ユーザーリスト表示設定	許可
ログアウト確認画面表示設定	しない
パブリックユーザー設定	許可しない
パブリックボックスの上限値	不可
モノカラー/色管理設定	カラー
ユーザー認証	本機装置は認証
ユーザー登録数	0件
HOME宛先有効設定	しない
送信宛先制限	制限しない
HDD	有り
認証装置設定	なし

ヘルプ(F1) <戻る(B) 開始(S) キャンセル

10 [完了] をクリックします。



認証データがリストアされます。

4 付録

4.1 認証モードテンプレートの設定項目

設定項目名	内容
カウンター上限値到達設定	カウンター上限値に到達した場合に、該当ジョブのみ停止、他のジョブは通常処理する時は 追い越し を選択します。
	カウンター上限値に到達した場合に、到達以降のジョブは全て停止する時は 停止 を選択します。
ユーザー数割当	ユーザー数と部門数の割当を 1-999 の間で割り当てます。
ユーザーと部門の連動	ユーザーと部門を連動させる場合は 連動する を選択します。
	ユーザーと部門を連動させない場合は 連動しない を選択します。
非認証ユーザーまたは部門の印字	非認証ユーザーまたは部門に印字を許可する場合は 許可する を選択します。
	非認証ユーザーまたは部門に印字を許可しない場合は 許可しない を選択します。
ユーザーの一覧をパネルに表示	ユーザーの一覧を装置のパネルに表示する場合は、 表示する を選択します。
	ユーザーの一覧を装置のパネルに表示しない場合は、 表示しない を選択します。
パブリックユーザー	パブリックユーザーを許可する場合は、 許可する を選択します。
	パブリックユーザーを許可しない場合は、 許可しない を選択します。
パブリックユーザーのコピー許可	パブリックユーザーにコピー操作を許可する場合は、 許可する を選択します。
	パブリックユーザーにコピー操作を許可しない場合は、 許可しない を選択します。
パブリックユーザーのスキャン許可	パブリックユーザーにスキャン操作を許可する場合は、 許可する を選択します。
	パブリックユーザーにスキャン操作を許可しない場合は、 許可しない を選択します。
パブリックユーザーのファクス許可	パブリックユーザーにファクス操作を許可する場合は、 許可する を選択します。
	パブリックユーザーにファクス操作を許可しない場合は、 許可しない を選択します。
パブリックユーザーのボックス操作許可	パブリックユーザーにボックス操作を許可する場合は、 許可する を選択します。
	パブリックユーザーにボックス操作を許可しない場合は、 許可しない を選択します。

設定項目名	内容
パブリックユーザーの印字許可	パブリックユーザーにプリンタ印字を許可する場合は、許可するを選択します。
	パブリックユーザーにプリンタ印字を許可しない場合は、許可しないを選択します。
パブリックユーザーの送信機能印字許可	パブリックユーザーに送信機能印字を許可する場合は、許可するを選択します。
	パブリックユーザーにプリンタ送信を許可しない場合は、許可しないを選択します。
パブリックユーザーのカラー印字許可	パブリックユーザーにカラープリンタ印字を許可する場合は、許可するを選択します。
	パブリックユーザーにカラープリンタ印字を許可しない場合は、許可しないを選択します。
パブリックユーザーのモノクロ印字許可	パブリックユーザーにブラックプリンタ印字を許可する場合は、許可するを選択します。
	パブリックユーザーにブラックプリンタ印字を許可しない場合は、許可しないを選択します。
パブリックユーザーのカラー送信許可	パブリックユーザーにカラー画像の送信を許可する場合は、許可するを選択します。
	パブリックユーザーにカラー画像の送信を許可しない場合は、許可しないを選択します。
認証方式	装置内部で認証する場合は、装置を選択します。
	外部サーバーで認証する場合は、サーバーを選択します。
外部サーバータイプ設定	SMB サーバーで認証する場合は、SMB を選択します。
	NDS サーバーで認証する場合は、NDS を選択します。
	Active Directory サーバーで認証する場合は、Active Directory を選択します。
ドメイン名 (ActiveDirectory)	外部サーバータイプで「ActiveDirectory」を選択した場合は、ActiveDirectory ドメイン名を入力します。
ドメイン名 (SMB)	外部サーバータイプで「SMB」を選択した場合は、SMB ドメイン名を入力します。
NDS ツリー名	外部サーバータイプで「NDS」を選択した場合は、NDS ツリー名を入力します。
NDS コンテキスト名	外部サーバータイプで「NDS」を選択した場合は、NDS コンテキスト名を入力します。
外部ユーザーのコピー許可	外部サーバーで認証されたユーザーにコピー操作を許可する場合は、許可するを選択します。
	外部サーバーで認証されたユーザーにコピー操作を許可しない場合は、許可しないを選択します。
外部ユーザーのスキャン許可	外部サーバーで認証されたユーザーにスキャン操作を許可する場合は、許可するを選択します。
	外部サーバーで認証されたユーザーにスキャン操作を許可しない場合は、許可しないを選択します。

設定項目名	内容
外部ユーザーのファクス許可	外部サーバーで認証されたユーザーにファクス操作を許可する場合は、許可するを選択します。
	外部サーバーで認証されたユーザーにファクス操作を許可しない場合は、許可しないを選択します。
外部ユーザーのボックス操作許可	外部サーバーで認証されたユーザーにボックス操作を許可する場合は、許可するを選択します。
	外部サーバーで認証されたユーザーにボックス操作を許可しない場合は、許可しないを選択します。
外部ユーザーの印字許可	外部サーバーで認証されたユーザーに印字を許可する場合は、許可するを選択します。
	外部サーバーで認証されたユーザーに印字を許可しない場合は、許可しないを選択します。
外部ユーザーの送信機能印字許可	外部サーバーで認証されたユーザーに送信機能印字を許可する場合は、許可するを選択します。
	外部サーバーで認証されたユーザーに送信機能印字を許可しない場合は、許可しないを選択します。

4.2 ウィークリータイマーテンプレート設定項目

設定項目名	内容
月曜日～日曜日	<p>曜日ごとにタイマー設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用時刻を制限する：この曜日にタイマー設定する場合にチェックします。 ・ 使用開始時刻：00：00 から 23：59 でセットします。 ・ 使用終了時刻：00：00 から 23：59 でセットします。
昼休みオフ機能設定	<p>指定した時刻、装置の電源をオフにするか設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昼休み OFF する：指定した時刻、装置の電源をオフする場合にチェックします。 ・ 昼 OFF 時刻：00：00 から 23：59 でセットします。 ・ 再起動時刻：00：00 から 23：59 でセットします。
時間外使用パスワード設定	<p>ウィークリータイマーでの電源オフ中、装置を使用可能にする場合に設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間外使用する：ウィークリータイマーでの電源オフ中、装置を使用可能にする場合にチェックします。 ・ パスワード：パスワードを 8 文字以内で入力する。

4.3 こんなメッセージが表示されたら

メッセージ	エラー内容
IP Address 範囲設定エラー。	IP アドレスの範囲が間違っています。検索終了 IP アドレスの値を変更してください。
重複するデータが存在します。	同じデータが既に登録されています。同じデータは登録できません。
LDAP 通信エラー	LDAP サーバー設定で LDAP サーバーの設定情報が正しいか確認してください。
XXXXX 更新エラー	装置の XXXXX 情報の更新に失敗しました。装置の状態で Ready になっているか確認し、再度行ってください。
XXXXX 削除エラー	装置の XXXXX 情報の削除に失敗しました。装置の状態で Ready になっているか確認し、再度行ってください。
XXXXX 書き込みエラー	装置への XXXXX 情報の書き込みに失敗しました。装置の状態で Ready になっているか確認し、再度行ってください。
XXXXX 取得失敗	装置の XXXXX 情報の取得に失敗しました。装置の状態で Ready になっているか確認し、再度行ってください。
データ未存在	装置からの読込機能でデータの読み込みを行った場合、読み込み元の装置に何もデータが存在しない時に表示されます。
パスワードが一致していません。	パスワードの入力と、パスワードの確認入力が一貫していません。再度両者の入力を行ってください。
ファイルフォーマットエラー	読み込むことのできないファイルが選択されました。本アプリケーションではサポートできないファイル形式です。
ファイル形式が正しくありません。	ファイルの内容が正しくありません。該当機種種のバックアップデータであるか、別の箇所で保存されたデータでないかなどを確認してください。

メッセージ	エラー内容
ログインエラー	装置にログインすることができませんでした。パスワード（またはユーザー名）を再度確認し、ログインを行ってください。
検索データ未存在	該当データが存在しません。再度ファイルを選びなおしてください（または LDAP の検索条件を変更してください）。
選択ファイル対象外エラー。	選択されたファイルは対象外のファイルです。再度ファイルの選択を行ってください。
通信エラー	装置との通信エラーです。ネットワークケーブルが接続されているか、装置の電源が入っているかご確認ください。
読み込みに失敗しました	装置からのデータの読み込みに失敗しました。装置との接続を確認し、再度読み込みを行ってください。
入力エラー	入力できない文字が使われています。入力可能な文字を入力してください。
入力範囲エラー	入力可能範囲を超えています。入力可能な数を入力してください。
未入力エラー	必須の入力項目に未入力の箇所があります。必須の箇所には必ず入力を行ってください。
多重起動はできません	本ソフトウェアは、同一 PC 上に 2 つ同時に起動することができません。
装置ロックエラー： 下記の場合、装置に書き込みができません。下記、条件に当てはまる状態がないか確認の上、装置に書き込みを行ってください。 * 装置にジョブが残った状態 * 装置に管理者でログインしている状態 * 装置がジョブ中の状態	左記条件に当てはまる場合、条件を取り除いてから、書き込みをおこなってください。（例えば、装置にジョブがたまっている状態の場合、ジョブを削除するか、もしくは全てのジョブが完了するのを待って、書き込みを行ってください。）
ボックス所有者変更処理エラー	装置のボックスの所有者変更処理に失敗しました。再度設定を行ってください。
更新されているデータが存在するため、認証モード変更ウィザードを起動できません。更新データを装置に書き込み後、再度実行してください。	認証モード変更、およびカウンター領域変更機能は、装置の設定とアプリケーション上の設定が異なる場合は、機能を実行できません。（更新）（追加）状態にあるデータを書き込む、もしくは装置情報を再読み込みしてから、実行してください。
ログイン時から装置の情報が変わっている	Data Administrator 上での編集集中に装置側で設定が変更されました。この状態では装置への書き込みができませんので、再度装置から読み込みを行って編集してください。
非 SSL 通信になっています。続行しますか？（SSL での通信を有効にするには、Web Connection で SSL の証明書を作成し、“OpenAPI” 設定の SSL 設定を有効にしてください。）	非 SSL 通信で通信を行うと暗号化されない状態でネットワーク上にデータが流れることになります。Web Connection で装置の SSL 設定を有効にしてから、設定を行うことをお勧めします。
必須入力エラー	必須の入力項目に未入力の箇所があります。必須の箇所には必ず入力を行ってください。

メッセージ	エラー内容
文字長オーバーエラー	入力文字長が制限を越えています。制限内の文字数を入力してください。
禁則文字エラー	使用不可能な文字種が使われています。規定の文字を入力してください。
数値未指定エラー	必ず数値で入力してください。
数値入力範囲エラー	範囲内の数値を入力してください。
対象が選択されていません。	リストから対象の装置を選択してください。
装置の IP アドレスが重複しています	リスト内に同じ装置が既に存在します。同じ装置をリスト内に表示することはできません。
タイムアウトエラーです	タイムアウトエラーです。ネットワークの接続確認や、装置の電源が入っているか確認してください。
SNMP の Read コミュニティ名が変更されている可能性があります。正しいコミュニティ名を入力して下さい。	装置の SNMP コミュニティ名が変更されている場合に表示されます。装置の正しい SNMP コミュニティ名を入力してください。
必要な DLL のロードができないため起動できません。	インストールが正常にされているか確認ください。また、設定を行う装置に対応したプラグインが正常にインストールされているかご確認ください。
外部アプリが見つかりません。	HDD Backup Utility などの外部ツールを起動する場合に、その該当する外部ツールがインストールされている必要があります。該当する外部ツールのインストールを行ってください。
IP アドレス変更に失敗しました。	再度行う、もしくは装置のオペレーションパネルで設定を行ってください。
機種が異なります。	「IP アドレスから登録」で装置登録で装置を登録する場合は、機種のモデルを間違えないように設定してください。この場合、一旦、この装置を装置登録から削除して、再度、装置登録を行ってください。
不明なエラー	不明なエラーが発生しました。一旦アプリケーションを終了し、再度設定を行ってください。
パスワード規約の設定が ON になっていますので、8 文字以上のパスワードを設定してください。また、同一文字のみのパスワードには設定出来ません。	装置の管理者設定でパスワード規約設定が ON の場合は、8 文字未満のパスワード、同一文字のみのパスワードには設定できません。それらのパスワードを設定したい場合は、パスワード規約設定を OFF に変更してください。
装置情報を開いているときは、一括メンテナンス処理はできません。	装置情報画面を閉じてから、再度行ってください。
装置一覧に対象装置が登録されていないので一括処理を起動できません。	リストに対象の装置を登録してください。また、対象の装置が本機能に対応しているか確認してください。

